

令和7年度	設計 の 理由	水道施設整備事業に伴い、本工事を要す。	工 期	R8.3.26 限 り	施 工 方 法	条件付 一般競争 入札	
起 債							
実 施 設 計 書 配水管布設工事 第10号 矢板市 安沢 地内 設 計 概 要							
							所長兼課長
							課 長 補 佐
施工延長 L=333.0m							工務GL
・配水管布設工 HPPEφ100 L=321.0m							
・配水管布設工 HPPEφ75 L=12.0m							
・仕切弁設置工 φ150・100 4箇所							
・消火栓設置工 φ100 1箇所							設計者
・給水管分岐替工 1式							
・土工、路面復旧工 1式							
設計書用紙（甲）							栃 木 県 矢 板 市
請負工事価格 金							
内 訳							
工事価格 金							
消費税相当額 金							
予 定 額			増 減 額	予 算 額 に対する 増 減 額		理 由	
査 定 額							
実施 前回	設計額						
	請負額						
今回 変更	設計額						
	請負額						

位置図



施 工 条 件 書

工事名：配水管布設工事第 10 号（安沢地内）

●工程関係

- ・工事着手前に施工計画書を提出し、監督員と協議すること。
- ・工事に何らかの支障があり工程が遅れる場合は、監督員と協議すること。

●用地関係

- ・施工上、個人の土地に入らなければならない場合、土地所有者の許可を得ること。残材や砂利等はトラブルの原因になるため、取扱いに対しては特に注意すること。
- ・境界杭・測量杭等は工事車両等で動かさぬよう確実に養生すること。また施工上支障となる場合は控えをとり、確実に復旧すること。

●公害対策

- ・作業中の騒音、振動については、極力配慮すること。
- ・原則として、日曜、祭日の作業は避けること。ただし、工期厳守を優先するため、必要に応じて工事の推進を図ること。
- ・土砂の運搬時、路上に落ちた土砂等は必ず清掃を行うこと。（特に搬入出口の路上）
- ・施工方法により、家屋・工作物等に被害を及ぼす恐れがある箇所は、着工前に工損調査等を行うこと。

●安全対策関係

- ・歩行者、車両等が工事区域内に侵入し、事故が発生しないよう十分注意すること。
- ・工事車両の出入口及び建設機械の旋回には、必ず誘導員を配置すること。
- ・交通整理員は、当初設計時では延べ 78 人(26 日×3 人)を見込んでいるが、警察協議等により施工条件の変更が生じた場合には、監督員と事前に協議の上、配置人員等は変更できるものとする。
- ・施工の安全確保の徹底を図るため、現場において作業員全員による定期的な教育、訓練等を実施すること。（労働災害防止）

また、月当たり半日以上の時間を割当てて、状況写真を提出すること。

●工事用道路関係

- ・片側通行、全面通行止め等を行い施工する場合、所轄の警察署及び矢板消防署、郵便局等と協議の上、必要に応じて書類を提出すること。
- ・う回路設定の場合、案内看板等を設置し、安全確保のために常に巡回すること。

●仮設備関係

- ・工事表示板等保安施設については所定の位置に設置し、夜間においても遠方から確認できるようにすること。また、常に巡回を行い、安全確認を行うこと。
- ・近隣工事として、道路改良舗装工事（県道下河戸・片岡線）、道路改良工事（市道安沢12号線）分割1号、同分割2号、下水道MH蓋調整工事、東電・NTT等の電柱移設工事が実施されている。工事看板等設置の際、車両通行上混乱が生じないように請負業者間で調整を行い、監督員に報告すること。

管布設箇所の道路幅員は狹隘につき、全面通行止めを実施する場合も上記を踏まえ、う回路看板の設置、工事沿線住民への説明を徹底すること。

●残土・産業廃棄物関係

- ・残土（土砂）がある場合、捨土処理報告書（写真添付）を提出すること。
- ・産業廃棄物（アスファルト塊、コンクリート塊）がある場合、径30cm未満に小割して、中間処理施設に持ち込み、受入書類等を添付して報告（写真添付）すること。
- ・ダンプトラック過積載による違法運行の防止対策実施要領を厳守すること。
- ・再生資源利用（促進）計画書及び同実施書の提出
工事を実施するにあたり、再生資源利用（促進）計画書を施工計画書に添付すること。
計画書の実施状況については、再生資源利用（促進）実施書を作成して、工事完了後速やかに実施書を発注者に提出すること。

●準備工

- ・監督員と協議し、必要に応じ既設配水管等埋設物の位置・土被りの確認を実施すること。
なお当初設計時において、2箇所程度の試掘を必須とする。
- ・宅地への給水管設置の際、既存給水管・浄化槽放流管等想定される埋設位置を確認の上、当初設計計上の位置、材料がこれによりがたい場合は、着工前に監督員と協議を行うこと。

●工事支障物関係

- ・埋設物等の支障物件を確認した場合、監督員に速やかに連絡を取り指示を受けること。
また埋設物等については、工事着手前に図面等により確認し、施工時には管理者の立会いを依頼すること。また、監督員と協議の上、必要に応じ試掘を行うこと。
- ・上下水道事務所 水道課 0287-44-1511
- ・ " 下水道課 0287-43-6214
- ・NTT東日本 0120-116-000
- ・東京電力カスタマーセンター 0120-995-112
- ・矢板警察署 0287-43-0110

●その他

- ・ 栃木県土木工事共通仕様書及び土木工事必携を準用する。
- ・ 特記仕様書を遵守すること。
- ・ 任意の基準点等を設置した場合は、監督員の確認を得て、起工測量時の報告にも明記すること。
- ・ 建設業退職金共済証紙購入報告書を提出すること。
- ・ 着手前に設計図書と現場との照査を行い、監督員に報告すること。
- ・ 施工時に住民等の交通に支障を極力減らすよう、看板や回覧等で周知し、苦情の回避に努めること。

(別紙 5)

捨 土 処 理 報 告 書

令和 年 月 日

水道事業管理者

矢板市長

様

住 所

商号又は名称

代 表 者 氏 名

捨土処理について、次のように処理を行いましたので、関係書類を添えて報告いたします。

記

1. 工 事 名

2. 工 事 場 所

3. 処 分 場 所

4. 処分地所有者名
又は処理施設社名

5. 処 理 量

6. 付 属 書 類

写真（処理前・処理後）、位置図

(別紙 6)

廃材処理報告書

令和 年 月 日

水道事業管理者

矢板市長

様

住 所

商号又は名称

代表者氏名

廃材処理について、次のように処理を行いましたので、関係書類を添えて報告いたします。

記

1. 工 事 名

2. 工 事 場 所

3. 処 分 場 所

4. 処分地所有者名
又は処理施設社名

5. 処 理 量

6. 付 属 書 類

写真（中間処理施設看板、廃材幅管理）、位置図
中間処理施設入荷証明

特 記 仕 様 書（建設副産物）

1 共通事項

- (1) 建設副産物実態調査要領に基づき、本工事に係る再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を作成し、施工計画書に含めて各1部提出すること。また、工事完成後速やかに上記計画書の実施状況について、再生資源利用実施書及び再生資源利用促進実施書を作成し、各2部提出するとともに、これらの記録を工事完成後1年間保存しておくこと。
- (2) 建設副産物の処分に先立ち、別紙「建設副産物処理承認申請書」により監督職員の確認を受け、同申請書を2部提出すること。
- (3) 建設廃棄物の処分にあって、排出事業者（元請業者）は処理業者と建設廃棄物処理委託契約書を締結し、建設副産物処理委託契約書（厚生省作成または建設八団体廃棄物対策連絡会作成様式）を監督職員に提示するとともに、同契約書の写しを提出すること。なお、収拾運搬業務を収拾運搬業者に委託する場合は、別に、収拾運搬業者と建設廃棄物処理委託契約を締結すること。
- (4) 建設副産物処理完了後速やかに別紙「建設副産物処理調書」を作成し、監督職員に2部提出するとともに、実際に要した処理等を証明する資料（受入れ伝票、写真、位置図、経路等）を提示し確認を受けること。また、竣工図書に添付すること。
- (5) 建設廃棄物については、産業廃棄物処理における「産業廃棄物管理票（マニフェスト）」のA票、B票、D票を監督職員に提示し、確認を受けるとともにE票の写しを竣工図書に添付すること。

2 建設発生土

(1) 指定（A）の場合

本工事により発生する建設発生土のうち、下記に示す建設発生土については、下記指定地に搬出すること。

ア 搬出先（相手先工事名、場所等）：

イ 土質及び処分量

m³

ウ 搬出時期

適宜

(2) 指定（B）の場合

建設発生土（198 m³）は準指定処理とし、請負者裁量で処理地を確保するものとし、実情に応じて運搬距離を変更するものとする。

※ただし、掘削土を土質・近接現場状況により流用する可能性があるため、監督員と協議し建設発生土量・運搬距離を変更するものとする。

(3) 自由処理の場合

建設発生土 (m3) は自由処分とし、請負者裁量で処理地を確保するものとするが運搬距離の変更はしない。

(4) 建設発生土を処理する場合には、処理先の見やすい場所に必ず標識を掲げること。

3 建設廃棄物

本工事により発生する

ア、 アスコン塊 (11 m3) は、 矢板市 針生 地内、
運搬距離 6.5km の施設に運搬し、処理するものとする。

イ、 コンクリート塊 (0.1 m3) は、 矢板市 針生 地内、
運搬距離 6.5km の施設に運搬し、処理するものとする。

ウ、 建設発生木材 (m3) は、 地内、
運搬距離 km の施設に運搬し、処理するものとする。

エ、 建設汚泥 (1 m3) は、 大田原市 蛭田 地内、
運搬距離 15.0km の施設に運搬し、処理するものとする。

オ、 建設発生廃プラ (m3) は、 地内、
運搬距離 km の施設に運搬し、処理するものとする。

カ、 石塊 (m3) は、 地内、
運搬距離 km の施設に運搬するものとする。

電 子 納 品 に 関 す る 特 記 仕 様 書

(建 設 工 事)

(適用範囲)

第1条 本特記仕様書は、当該工事（以下「本工事」という。）の最終成果品を電子納品の対象とし、そのために必要な事項について定めるものである。

(電子納品)

第2条 電子納品とは、本工事の最終成果を電子データで納品することをいう。

ここでいう電子データとは、「電子納品運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）に示されたファイルフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

なお、書面における署名又は押印の取扱いについては、別途監督職員と協議するものとする。

(成果品の提出)

第3条 成果品の提出の際には、国土交通省チェックシステム及びウィルス対策ソフトを利用してチェックを行い、エラーが無いことを確認した後、電子媒体に格納することとする。提出物は、電子媒体（CD-R又はDVD-R）正副各1部、計2部とする。

なお、電子納品の対象外とした書類は、従来通り紙で納品する。

「ガイドライン」で特に記載のない項目については、原則として成果を電子化して提出する義務はないが、監督職員と協議の上、電子化を決定する。

また、紙による書類の提出は必要最小限とする。

(成果品の保管)

第4条 請負者は、発注者に提出する電子媒体に格納したデータを、バックアップとして請負者のハードディスク等に保管し、その保管年数は10年間を原則とする。

(成果品の確認)

第5条 請負者は、電子媒体（CD-R又はDVD-R）提出時において、電子データが「ガイドライン」に基づき作成されていることを、監督職員の立会いのもと確認する。

なお、電子データの検査方法については、別途協議のうえ決定する。

(その他)

第6条 請負者は、本工事の実施にあたり内容に疑義が生じた場合には、速やかに監督職員と協議し、その指示を受けなければならない。

特 記 仕 様 書

1. 本工事の主任技術者は、次に掲げる資格を有する者を当てなければならない。

- (1) 建設業法（昭和24年法律第100号）による技術検定（以下「技術検定」という。）のうち検定種目を二級の建設機械施工管理又は、二級の土木施工管理とするものに合格した者、並びに建設大臣が前述の者と同等以上の能力を有するものと認定した者。
- (2) 技術士法（昭和32年法律第124号）による本試験のうち技術部門を建設部門、農業部門（選択科目「農業土木」とするものに限る。）とするものに合格した者。

なお、主任技術者等の通知書に合格証明書等有資格技術者であることを証するもの（写しでもよい）を添付すること。

特記仕様書

請負者は、工事の施工にあたっては次の事項を厳守するものとする。

1. 積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
2. さし杵装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと。
3. 過積載車両、さし杵車両、不表示車等から土砂等の引渡しを受ける等過積載を助長することのないようにすること。
4. 取引関係のあるダンプカー事業者が過積載を行う場合、又はさし杵装着車、不表示車等を土砂等運搬に使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること。
5. 建設発生土の処理及び骨材の購入等に当たって、下請け事業者及び骨材納入業者の利益を不当に害することのないようにすること。
6. 不法パーソナル無線・不法アマチュア無線等の不法・違法無線局を搭載しているトラック、ダンプカー等の工事関係車両を使用しないこと。また、下請け業者にも十分指導するものとする。
7. 以上のことにつき、下請け業者にも十分指導すること。

特記仕様書 配水管布設等施工管理

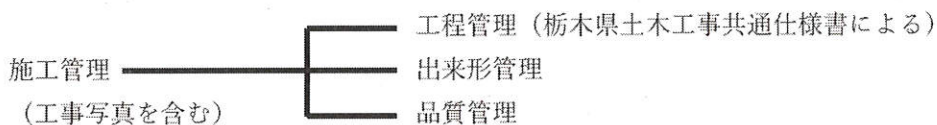
1 目的

この管理基準は、矢板市水道事業が発注する水道工事（配水管布設工事）の施工について、契約図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質規格の確保を図ることを目的とする。

ただし、この基準に定めのない舗装工事、土木工事等における施工管理は「栃木県土木工事共通仕様書」により、またこの基準に定めのない配水管布設工事における施工管理は「水道工事標準仕様書（(公社)日本水道協会）」により、給水管布設工事における施工管理は「矢板市給水装置設計施工指針」によるものとする。

2 構成

施工管理の構成は、下記のとおりである。



3 管理の実施

- (1) 請負者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定め、当該計画書を提出する。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行う。
- (3) 請負者は、測定（試験）等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施する。
- (4) 請負者は、測定（試験）等の結果をその都度逐次管理図表等に記録し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出する。
- (5) 請負者は、工事写真を施工管理の手段として、各工事の施工段階及び工事完成後明視できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況等を写真管理基準により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し速やかに提示するとともに、工事完成時に提出しなければならない。

4 規格値

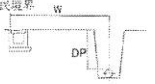
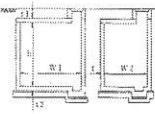
請負者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、規格値を満足しなければならない。

以下に「水道工事標準仕様書（日本水道協会）」及び「栃木県土木工事共通仕様書」の一部を抜粋する。設計図書に謳われた管種・工法等必要に応じ、管理項目を追加し施工計画書に記載すること。

●水道工事標準仕様書（日本水道協会）2010年版

出来形管理基準例

単位：mm

工 種	測 定 項 目	規格値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
管の据付	占用位置 W	±30	・路線、口徑、管種ごとに、施工延長40mにつき1箇所		
	土被り DP	±30			
管の接合	鑄鉄管 継手	接合要領書による	・口徑、管種毎に全接合箇所測定 ・各種継手点検表に記入		
	ビニル管 継手				
	ポリ管 継手				
弁栓類・鉄蓋の据付	路面との段差	段差が無いこと	・全箇所測定		
弁室その他の構造物	弁室（現場打）		・全箇所測定		
	壁 厚 t	-20			
	床版厚 t ₁	-20			
	底版厚 t ₂	-20			
	内空幅 w ₁ , w ₂	-30			
異形管防護工	内空高 h	±30	・全箇所測定		
	幅				
	高 さ	-30			
	辺 長				
推進工	体 積	±であること	・発進坑、到達坑で測定		
	基 準 高	±50			
	中心線の偏位	左右±50			
	管 底 高	±50			
シールド工（一次覆工）	管 底 高	±50	・20m毎に測定 なお、推進延長が20m以下の場合は、任意で2箇所測定。 ・20m毎に測定 なお、推進延長が20m以下の場合は、両端で測定 ・51mm毎に測定		
	中心線の偏位	左右±100			

上記規格値は、参考として調査事業体の代表値を記載した。

なお、上記以外の出来形管理基準については、国土交通省「土木工事施工管理基準及び規格値」を準拠する。

品質管理基準例

別途、矢板市水道工事水圧試験標準仕様書にて規格値を定める。

(一社)日本ダクトイル鉄管協会技術資料により締付けトルクを決定すること。

工種	試験項目	試験方法	規格値	試験基準	摘要
水圧試験	管路水圧試験	管内に充水し所定の水圧を負荷し、一定時間保持してこの間の圧力変化を測定	管路に漏水等異常が無く、急激な圧力降下が生じないこと	管路工事完了時	4.1.19 参照 取組として監督職員の立会い
	継手部水圧試験	試験水圧 0.5MPa 程度で 5 分保持してこの間の圧力変化を測定	0.4MPa 以上保持	φ900 mm 程度以上の管 検査時において監督職員がこの試験を指示した場合実施	4.1.19 参照
通水準備	遊離残留塩素の測定等	4.1.32 通水準備工による	上流の水道水と遊離残留塩素が同程度	使用開始前	4.1.32 参照 必要に応じて中和剤を添加
管の接合	ダクトイル鉄管継手部接合検査	目視 ノギス等による計測	・各継手部所定の寸法を満たすこと ・ボルトの締め付けトルクを満たすこと	すべての継手接合箇所について実施	4.2.3～4.2.10 参照 チェックシートを使用
管の溶接	放射線透過試験	JIS Z 3104 JIS Z 3050 JIS Z 3106	・きずの分類において 3 類以上 ・内面へこみは、その部分の透過写真濃度がこれに接する母材部分の透過写真濃度を超えないこと ・溶接は、いかなる方向に測った寸法も 1 個につき 6 mm 又は管の肉厚のいずれか小さい方を超えず、試験部の有効長さ当たり最大寸法の合計長さ 12 mm 以下とする。	検査箇所数は溶接箇所数の 10% とし、撮影 1 口につき 900 mm 以下は 1 箇所、1000 mm 以上は 2 箇所	4.3.7 参照 WSP008 参照 監督職員の指示で検査箇所増可能
管の溶接	超音波探傷試験	JIS Z 3060	きずの分類において 3 類以上	検査箇所数は溶接箇所数の 10% とし、撮影 1 口につき 2 箇所 検査長は 30 cm	4.3.7 参照 監督職員の指示で検査箇所増可能
内面塗装（無溶剤形エポキシ樹脂塗料）	外観検査	JWWA K 157	異物の混入、著しいむら、塗りもれなどがなく、均一な塗膜であること	すべての塗装箇所	4.3.4 及び 4.3.7 参照
	塗膜厚測定	JWWA K 157	0.4 mm 以上（プライマーを含む）	監督職員の指示した箇所	4.3.4 参照
	ピンホール	JWWA K 157	ピンホール探知器を用いて検査を行い、火花が発生するような欠陥がないこと	すべての塗装箇所	4.3.4 及び 4.3.7 参照
	付着性試験	JWWA K 157	へらを用いてはつきり、容易にはがれないこと	監督職員の指示した箇所	4.3.4 及び 4.3.7 参照

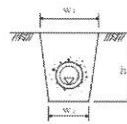
工種	試験項目	試験方法	規 格 値	試験基準	摘 要
外面塗装 (タールエポキシ樹脂塗料)	外観検査	JWWA K 115	異物の混入、著しいむら、塗りもれなどがなく、均一な塗膜であること	すべての被覆箇所	4.3.5 及び 4.3.7 参照
	ピンホール	JWWA K 115	ピンホール探知器を用いて検査を行い、火花が発生するような欠陥がないこと	すべての被覆箇所	4.3.5 及び 4.3.7 参照
	塗膜厚測定	JWWA K 115	0.3 mm以上	すべての被覆箇所	4.3.5 及び 4.3.7 参照
	付着性試験	JWWA K 115	へらを用いてはつり、容易にはがれないこと	監督職員の指示した箇所	4.3.5 及び 4.3.7 参照
外面塗装 (ジョイントコート)	外観検査	JWWA K 153	・焼損がないこと ・有害な欠陥となるめくれがないこと ・ジョイントコート両端から 50 mm以内に膨れがないこと ・工機塗装部との重ね長さは 50 mm以上 ・耐衝撃シートについては、有害なきずがなく、テープ又は固定バンドで確実に固定されていること	すべての被覆箇所	4.3.6 及び 4.3.7 参照
	ピンホール	JWWA K 153	ピンホール探知器を用いて検査を行い、火花が発生するような欠陥がないこと	すべての被覆箇所	4.3.6 及び 4.3.7 参照
	塗膜厚測定	JWWA K 153	加熱収縮後のジョイントコートの厚さは、1.5 mm以上	すべての被覆箇所	4.3.6 及び 4.3.7 参照

なお、上記以外の品質管理については、国土交通省「品質管理基準及び規格値」を準拠する。

●栃木県土木工事共通仕様書 平成 31(2019)年版、令和 4 年 4 月一部改訂

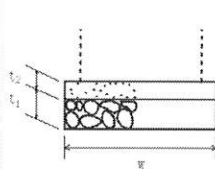
・管路土工、管布設

3	2	3	29	3	側溝工 (暗渠工)	基準高▽	±30
						幅 w_1, w_2	—50
						深 さ h	—30
						延 長 L	—200

施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。 延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工につき 2 箇所。 (なお、製品使用の場合の、製品寸法は、規格証明書等による。)		3-2-3-29
1 施工箇所		

・砂基礎

3	2	4	1		一般事項 (砂込砂利) (砕石基礎工) (砕く石基礎工) (防シロシクワート)	幅 w	設計値以上
						厚さ t_1, t_2	—30
						延 長 L	各構造物の 規格値による

施工延長 40m (測点間隔 25m の場合は 50m) につき 1 箇所。延長 40m (又は 50m) 以下のものは 1 施工箇所につき 2 箇所。		3-2-4-1
--	---	---------

・下層路盤工

3	2	6	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—
						厚 さ	—45	—45	—15	—15
						幅	—50	—50	—	—

基準高は延長 40m 毎に 1 箇所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り越えて測定。幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割に測定。ただし、幅は設計図書に示す測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り越えて測定しなくても良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を揃えた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m ² 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m ² 以上 10,000 m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満 厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-7
--	---	---------

・上層路盤工

3	2	6	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 総厚調整路盤工	厚 さ	—25	—30	—8	—10
						幅	—50	—50	—	—

幅は、延長 80m 毎に 1 箇所の割とし、厚さは各車線 200m 毎に 1 箇所を掘り越えて測定。ただし、幅は設計図書に示す測点によらず延長 80m 以下の間隔で測定することができる。なお、厚さの管理を下がり管理で行う場合は掘り越えて測定しなくても良い。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を揃えた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が 10,000 m ² 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が 3,000 t 以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m ² 以上 10,000 m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満 厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	3-2-6-7
--	---	---------

・表層工

3 土木工事 共通編	2 一般 施工	6 一般 舗装工	7	11	アスファルト舗装工 (表層工)	厚さ	-7	-9	-2	-3
						幅	-25	-25	—	—
						平 均 値	3m ² あたり5- (a)2.4mm以 下 直線式 (足付き) (c)1.75mm以 下			

3 土木工事 共通編	2 一般 施工	6 一般 舗装工	7	11	アスファルト舗装工 (表層工)	幅は、延長 80m毎に 1箇所の新とし、厚さは、1,000 mに 1個の割合でコアを採取して測定。ただし、幅は設計図書の測点によらず延長 80m以下の閉路で測定することができる。ただし、3,000 m未満の場合は最低 3 個とする。また、1,000 m未満で異常がなければ材料の納入伝票等での確認でも良い。	工事現場の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事を行い、舗装施工面積が 10,000 m ² 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000 t 以上の場合は該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事を行い、同一工種の施工が数日連続する場合で、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で 1,000 m ² 以上 10,000 m ² 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が 500 t 以上 3,000 t 未満 厚さは個々の測定値が 10 個に 9 個以上の割合で規格値を満足しなければならぬとともに、10 個の測定値の平均値 (X ₁₀) について満足しなければならぬ。ただし、厚さのデータ数が 10 個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 横面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 1,000 m未満の舗装工事及び維持工事においては、平均性の項目を省略することが出来る。	3-2-6-7
------------------	---------------	----------------	---	----	--------------------	---	---	---------

・区画線工

3 土木工事 共通編	2 一般 施工	3 共通 的工種	9	区画線工	厚さ t (溶融式のみ)	設計値以上
					幅 w	設計値以上

3 土木工事 共通編	2 一般 施工	3 共通 的工種	9	区画線工	各種種毎に、1箇所テストピースにより測定。	3-2-3-9

矢板市水道工事水圧試験標準仕様書

この仕様書は、矢板市上下水道事務所水道課発注の水道工事における水圧試験について定めたものである。他の項目については、日本水道協会発行『水道工事標準仕様書』を準拠する。

- 1 受注者は配管終了後、継手の水密性を確認するため、管路の水圧試験を行わなければならない。
- 2 試験を行う場合は、監督員と事前に日時を協議し立会いのもと実施すること。
- 3 試験方法は管内充水方式とし、布設したダクタイル鋳鉄管、水道配水用ポリエチレン管及び水道用ポリエチレン二層管を 0.75Mpa で加圧し 1 時間後の水圧が 0.6Mpa 以上保持していれば合格とする。
- 4 管内への充水は一昼夜程度かけ、管内へ侵入した空気を十分に排気することが望ましいが、管径や配管形状、地理的な条件により変動するため、監督員と協議し決定すること。
- 5 試験値が合格値を下回った場合、管路や弁栓類を点検し充水作業後、再試験を行わなければならない。
- 6 試験器の取付け位置は、配管端部に取付けた管栓及び管栓帽又は消火栓とする。
- 7 試験器は自記録式又はデータログ式とする。自記録式ではチャート紙を使用し、データログ式ではチャート紙形式でデータを出力すること。なお、自記録式のチャート紙は 1 時間用又は 4 時間用を使用すること。
- 8 成果物はチャート紙と記録写真を提出することとし、記録写真のみは不可とする。
- 9 水道配水用ポリエチレン管の試験は EF 接合後 1 時間以上経過してから行うこと。
- 10 水道配水用ポリエチレン管の試験については、予備加圧（0.75Mpa で加圧し 10 分間放置）後に試験を行うことも可とする。
- 11 管径 900 mm 以上の鋳鉄管継手ではテストバンドを使用した水圧試験とし、試験方法は日本水道協会発行『水道工事標準仕様書【土木工事編】』に記載のとおりとする。

※試験器及び接続部材は受注者が用意すること。

※試験に使用する管栓や管栓帽は発注者が貸与するが、工事が重なり、受注者の求める日時に貸与できない場合がある。この時、受注者の都合で試験を実施する場合は、受注者の負担で部材を用意すること。

特 記 仕 様 書

1. ダクタイル鋳鉄管耐震継手管（GX形管）を含む工事の主任技術者（監理）又は現場代理人のいずれかの者に、配水管技能者を当てなければならない。

なお、配水管技能者とは下記 表－1 の資格を有する者とする。

表－1 対象工事と資格

配置対象工事	配水管技能者の資格	登録等の区分
500mm未満のダクタイル鋳鉄管耐震継手管（GX形管）を含む工事	公益社団法人日本水道協会の配水管技能者登録	「耐震登録」又は「耐震継手」
	一般社団法人日本ダクタイル鋳鉄管協会の継手接合研修会の受講証を有する者	「耐小」（耐震管φ450以下）

※配水管工技能講習会（公益社団法人日本水道協会主催）受講修了者に交付される登録証の有効期限は発行日から5年間。有効期限を迎える登録証は更新手続きが必要。

2. 水道配水用ポリエチレン管（PEP、HPPE）を含む工事の主任技術者（監理）又は現場代理人のいずれかの者に、配水管技能者を当てなければならない。

なお、配水管技能者とは下記 表－2 の資格を有する者とする。

表－2 対象工事と資格

配置対象工事	配水管技能者の資格	登録等の区分
水道配水用ポリエチレン管を含む工事	配水用ポリエチレンパイプシステム協会の配管施工講習会（配水管用）の受講修了者又は旧団体（「水道用ポリエチレンパイプシステム研究会」「配水用ポリエチレン管協会」）の施工講習会の受講修了者。また、これと同等のメーカー（積水化学工業株、株クボタシーアイ）が実施する講習会を受講し、受講証を取得した者	

3. 配水管から分岐し、給水装置工事を施工する場合は、水道法施行規則第 36 条に基づき、給水装置工事主任技術者及び技能者を適正に配置すること。

工事設計書

				課長		課長補佐		主任・係長		審査者		検算		設計者	
--	--	--	--	----	--	------	--	-------	--	-----	--	----	--	-----	--

工事名称 配水管布設工事 第10号	
工事費総額 ¥- (内訳) 工事価格 ¥- 消費税 ¥-	
発注者名 矢板市上下水道事務所水道課 工 期 工事場所 矢板市安沢地内 場所名称	共通仮設費補正： 一般交通等の影響あり② *1.2 現場管理費補正(工事場所)： 一般交通等の影響あり② *1.1 一般管理費補正(契約保証)： 金銭的保証を必要 +0.04%
工事概要 当初設計	変更設計

総括情報表

事務所名 設計書区分/番号 変更回数 事業名 適用単価区分 適用単価地区 単価適用日 諸経費体系 設計書名	008 矢板 (09 栃木県) 2025-09-10		
	当世代	前世代	
前払率 工事種類 工種区分 施工地域・工事場所区分 現場環境改善費補正 一般管理費補正(契約保証) 緊急工事区分による補正 豪雪補正	補正なし 水道工事(水道実務必携基準) 開削工事及び小口径推進工事等 一般交通等の影響あり② 金銭的保証を必要 補正なし		

本工事内訳書

頁0003

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配水管	1	式			
配水管布設工事	1	式			
配水管布設工（資材費）HPPE φ100	1	式			
ホリチレン管(PEP) EF片受直管 φ100×5m	64	本			管：
EF両受曲管 45° φ100	3	個			管：
EF片受曲管 45° φ100	1	個			管：
EF両受チース（同径） φ100×100	1	個			管：
EFソケット φ100	6	個			管：
PVジョイント片落管 PE管用 内面粉体 HPPE φ100×VP φ75	1	個			管：

本工事内訳書

頁0004

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
VP用鋳鉄曲管 45° 内面粉体 φ75 離脱防止金具付	2	個			管:
硬質塩化ビニル管 VP フレーメント直管 φ100×5m	1	本			管:
サドル分水栓キャップ φ20	1	個			管:
ロケティンクワイヤー	321	m			
埋設標示シート 幅150mm ダブル	321	m			
管明示テープ 幅30mm 長さ20m/個 年号入	151.3	m			
配水管布設工（労務費）HPPE φ100	1	式			
ホリエチレン管(融着接合(EF接合))据付工 呼び径100mm	318.4	m			代価第1号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工 呼び径100mm 2口継手	10	箇所			代価第2号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

本工事内訳書

頁0005

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ホ°ポリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工 呼び径100mm 1口継手	65	箇所			代価第3号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホ°ポリエチレン管切断工 呼び径100mm	6	口			代価第4号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
既設管撤去切断工(ホ°ポリエチレン管) 呼び径100mm	1	口			代価第5号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第10節-106頁
ホ°ポリエチレン管(メカニカル継手)継手工 呼び径100mm	1	口			代価第6号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ホ°ポリエチレン管(メカニカル継手)継手工 呼び径75mm	5	口			代価第7号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
分水栓止工 呼び径20mm	1	口			代価第8号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 ※PP管継手工 φ20
通水試験工 試験距離：321.0m	321	m			代価第9号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁
管明示シート工(手間のみ)	321	m			代価第10号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁
管明示テープ工(手間のみ) 50mm 天端明示無	321	m			代価第11号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-87頁

本工事内訳書

頁0006

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ローディングワイヤ工(手間のみ)	321	m			代価第12号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-87頁
鋳鉄製仕切弁(機械力)縦型撤去工 呼び径100mm以下	1	基			代価第13号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-98頁
ねじ式弁筐撤去工 A, B形 1号 底版使用しない	1	箇所			代価第14号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁
硬質塩化ビニル管切断工 呼び径75mm	6	口			代価第15号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
配水管布設工(資材費) HPPE φ75	1	式			
ポリエチレン管(PEP) EF片受直管 φ75×5m	2	本			管:
EFレギュレータ φ100×75	1	個			管:
PVジョイント PE管用 内面粉体 φ75	1	個			管:
VP用鋳鉄曲管 45° 内面粉体 φ75 離脱防止金具付	2	個			管:

本工事内訳書

頁0007

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ロケティングワイヤ	12	m			
埋設標示シート 幅150mm ダブル	12	m			
管明示テープ 幅30mm 長さ20m/個 年号入	4.1	m			
配水管布設工（労務費）HPPE φ75	1	式			
ポリエチレン管(融着接合(EF接合))据付工 呼び径75mm	11.2	m			代価第16号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ポリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工 呼び径100mm 1口継手	1	箇所			代価第3号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ポリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工 呼び径75mm 2口継手	1	箇所			代価第17号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ポリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工 呼び径75mm 1口継手	2	箇所			代価第18号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ポリエチレン管(メカニカル継手)継手工 呼び径75mm	6	口			代価第7号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

本工事内訳書

頁0008

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
硬質塩化ビニル管切断工 呼び径75mm	2	口			代価第15号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
通水試験工 試験距離：12.0m	12	m			代価第19号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁
管明示シート工(手間のみ)	12	m			代価第10号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁
管明示テープ工(手間のみ) 50mm 天端明示無	12	m			代価第11号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-87頁
ロケティンクワイヤ工(手間のみ)	12	m			代価第12号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-87頁
仕切弁設置工（資材費）	1	式			
PE挿口付ソトシール仕切弁 内面粉体 φ100 7.5K	3	基			管：
PE挿口付ソトシール仕切弁 内面粉体 φ75 7.5K	1	基			管：
仕切弁筐 浅埋用 φ50～φ200 座台共	4	基			

本工事内訳書

頁0009

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仕切弁設置工（労務費）	1	式			
鋳鉄製仕切弁（機械力）縦型設置工 呼び径100mm以下	4	基			代価第20号 【水道事業実務必携（R6）】 第一編-第2章-第9節-98頁
ねじ式弁筐設置工 A, B形 1号 底版使用する	4	箇所			代価第21号 【水道事業実務必携（R6）】 第一編-第2章-第9節-102頁
消火栓設置工（資材費）	1	式			
PE挿口付鋳鉄製フランジ付T字管 φ100×75 7.5K	1	個			管：
ホール式補修弁（レバー式） 内面粉体 φ75 L150	1	個			管：
地下式単口消火栓（浅埋用） 内面粉体 φ75×65	1	基			管：
消火栓用鉄蓋 円形 φ600 鉄蓋、受枠共	1	組			
消火栓・空気弁用ボックス 上部壁 内径600 H200	1	個			

本工事内訳書

頁0010

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
消火栓・空気弁用ボックス 下部壁 内径600 H300	1	個			
消火栓・空気弁用ボックス 底版 内径600 H40	1	個			
フランジ 接合材 φ75 芯金入パッキン、ステンボルト・ナット共	2	組			管：
消火栓設置工（労務費）	1	式			
地下式消火栓設置工 単口 機械施工	1	箇所			代価第22号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-101頁
鉄蓋設置工 円形4号 内寸600mm	1	個			代価第23号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁
上部壁設置工 円形4号 内寸600mm 高さ200mm	1	個			代価第24号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁
下部壁設置工 円形4号 内寸600mm 高さ300mm	1	個			代価第25号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁
底版設置工 円形4号 内寸600mm 高さ40mm	1	個			代価第26号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-102頁

本工事内訳書

頁0011

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
フランジ継手工 呼び径75(80)mm JWWA7.5K(F12)	1	口			代価第27号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-56頁
給水管分岐替工（資材費）	1	式			
分水サドル PE管用 サドル式 φ100×50 フィルム共	1	個			管：
分水サドル PE管用 サドル式 φ100×20 フィルム共	5	個			管：
分水サドル 塩ビ管用 φ75×20 フィルム共	1	個			管：
メーターハルフ 伸縮 φ20	1	個			管：
メーターハルフ 伸縮 φ13	5	個			管：
ポリエチレン管 1種二層管 φ50	2	m			管：
ポリエチレン管 1種二層管 φ20	240.8	m			管：

本工事内訳書

頁0012

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
メーターユニオン(回転式) φ 20	2	個			管:
メーターユニオン(異径、回転式) φ 13×20P	10	個			管:
ボール式止水栓 φ 20	6	個			管:
止水栓筐(蓋FCD) SSD100 100×450	4	個			
止水栓筐(蓋枠FCD) SSDF100 100×450	2	個			
埋設標示シート 幅150mm タブル	19.8	m			
メーターユニオン φ 50	1	個			管:
メーターユニオン φ 20	18	個			管:
ロケーションクワイヤー	24.8	m			

本工事内訳書

頁0013

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
伸縮可撓離脱防止継手 P50	1	個			管：
伸縮可撓離脱防止継手 P20	1	個			管：
伸縮可撓離脱防止継手 P20×V13	5	個			管：
給水管分岐替工（労務費）	1	式			
サドル分水栓建込み工 ポリエチレン管 配水管呼び径100mm 取り出し径50mm	1	箇所			代価第28号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-192頁
サドル分水栓建込み工 ポリエチレン管 配水管呼び径100mm 取り出し径20mm	5	箇所			代価第29号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-192頁
サドル分水栓建込み工 ビニル管 配水管呼び径75mm 取り出し径20mm	1	箇所			代価第30号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-192頁
ポリエチレン管据付工 呼び径50mm	2	m			代価第31号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ポリエチレン管据付工 呼び径20mm	240.8	m			代価第32号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁

水道課

本工事内訳書

頁0014

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ポ リエチレン管継手工 呼び径50mm	2	口			代価第33号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ポ リエチレン管継手工 呼び径20mm	19	口			代価第34号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ポ リエチレン管継手工 呼び径13mm	5	口			代価第35号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁
ポ リエチレン管切断工 呼び径50mm	2	口			代価第36号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
ポ リエチレン管切断工 呼び径20mm	19	口			代価第37号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
止水栓取付け工 PP用 呼び径20mm 止水栓及び筐取付	6	箇所			代価第38号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-193頁
管明示シート工(手間のみ)	19.8	m			代価第10号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁
硬質塩化ビニル管切断工 呼び径13mm	5	口			代価第39号 【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第8節-97頁
量水器撤去工(再利用) 呼び径20mm 量水器及び筐	1	箇所			量水器取付け工×0.6

本工事内訳書

頁0015

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
量水器取付け工(ねじ込み接合) 呼び径20mm 量水器及び筐取付	1	箇所			代価第40号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-194頁 再利用
量水器撤去工(再利用) 呼び径13mm 量水器及び筐	5	箇所			量水器取付け工×0.6
量水器取付け工(ねじ込み接合) 呼び径13mm 量水器及び筐取付	5	箇所			代価第41号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-194頁
土工	1	式			
土工	1	式			
土工	1	式			
舗装版切断 アスファルト舗装版, 15cm以下, -, -	824	m			施工第1号
舗装版直接掘削積込工(小型バックホ) 舗装厚0cm超え10cm以下 バックホ 山積0.13m3[平積0.1m3]	229	m2			代価第42号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-167頁 As
舗装版直接掘削積込工(小型バックホ) 舗装厚0cm超え10cm以下 バックホ 山積0.13m3[平積0.1m3]	0.1	m2			代価第42号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-167頁 Co

本工事内訳書

頁0016

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
アスファルト塊・コンクリート塊(無筋)運搬工 タンブトラック2t積 バックホウ山積0.13m3[平積0.10m3] DID区間あり 6.5km以下 タイ良好	11	m3			代価第43号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-179頁 As
アスファルト塊・コンクリート塊(無筋)運搬工 タンブトラック2t積 バックホウ山積0.13m3[平積0.10m3] DID区間あり 6.5km以下 タイ良好	0.1	m3			代価第43号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-179頁 Co
アスファルト廃材処理費	11	m3			処:
コンクリート廃材処理費 無筋構造物廃材	0.1	m3			処:
舗装版切断汚泥運搬費 2tトラック車片道25kmまで	1	m3			
舗装版切断汚泥処分費 汚泥比重 1.20～1.10	1	m3			処:
人力 掘削 砂・砂質土 粘性土 礫質土	0.4	m3			代価第44号
小型バックホウ掘削積込工 バックホウ 山積0.13m3[平積0.1m3]	211	m3			代価第45号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-161頁
管路埋戻・締固め工(機械埋戻・小型バックホウ) バックホウ 山積0.13m3[平積0.1m3] 砂 クッション用ロス率: 0.26	117	m3			代価第46号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-164頁

本工事内訳書

頁0017

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
管路埋戻・締固め工(機械埋戻・小型バックホ)					代価第47号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-164頁
バックホ 山積0.13m3[平積0.1m3] 再生クラッシャーラン RC-40ロス率: 0.26	5	m3			
管路埋戻・締固め工(機械埋戻・小型バックホ)					代価第48号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-164頁
バックホ 山積0.13m3[平積0.1m3] 発生土	12	m3			
発生土運搬工					代価第49号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-175頁
ダンプトラック2t積 バックホ山積0.13m3[平積0.10m3] DID区間なし 9.0km以下 タイ良好	198	m3			
残土受入費					
砂利採取場への搬出(整地費用を含む)	198	m3			処:
路盤工(施工幅1.8m未満)					代価第50号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-170頁
2層仕上げ 仕上り厚35cm 再生クラッシャーラン RC-40	208	m2			
舗装工(人力施工)					代価第51号 【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第1節-179頁
車道及び路肩 仕上り厚5cm プライムコート 砂散布あり アスファルト混合物(エコスラグ入り再生密粒度アスコン(20))	229	m2			
コンクリート					施工第2号 【土地改良工事積算基準(土木)(R6)】施工パッケージ 3-②
小型構造物, 人力打設, 生コンクリート 高炉・普通 18-8-25(W/C指定なし), -, 一般養生, -, 有り, -	0.1	m3			
仮設工					
	1	式			
仮設工					
	1	式			

本工事内訳書

頁0018

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
仮設工	1	式			
交通誘導警備員B 昼間勤務(8:00～17:00) 実働8時間(交替要員無し)	1	式			代価第52号 【土木工事標準積算基準書(共通編)(R6)】Ⅱ-5-21-1
【 直接工事費計 】					
共通仮設費率額	1	式			
【 共通仮設費計 】					
【 純工事費 】					
現場管理費率額	1	式			
【 現場管理費計 】					
【 工事原価 】					

本工事内訳書

頁0019

費目・工種・種別・細目	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
一般管理費率額	1	式			
【 一般管理費計 】					
【 工事価格 】					
【 消費税等相当額 】					
【 工事費計 】					

ポリエチレン管(融着接合(EF接合))据付工
呼び径100mm

施工代価表

代価第1号 頁0020

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
【 合計 】	10	m			
【 単位当り 】	1	m			

ポリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工
呼び径100mm 2口継手

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の8.5%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

ポリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工
呼び径100mm 1口継手

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の8.5%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

ポリエチレン管切断工
呼び径100mm

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の7%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

既設管撤去切断工(ホリェチレン管)
呼び径100mm

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
配管工 割増単価非公表の為割増無し		人			
諸雑費	1	式			労務費の7%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

ポリエチレン管(メカニカル継手)継手工
呼び径100mm

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

ポリエチレン管(メカニカル継手)継手工
呼び径75mm

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

分水栓止工
呼び径20mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

通水試験工
試験距離：321.0m

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁 321.0 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
通水試験工					
給水車：不要		日			
【 合計 】	321.0	m			
【 単位当り 】	1	m			

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-66頁

100 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
【 合計 】	100	m			
【 単位当り 】	1	m			

管明示テープ 工(手間のみ)
50mm 天端明示無

施工代価表

代価第11号 頁0030

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-87頁 100 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
【 合計 】	100	m			
【 単位当り 】	1	m			

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-87頁

100 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
【 合計 】	100	m			
【 単位当り 】	1	m			

鑄鉄製仕切弁(機械力)縦型撤去工
 呼び径100mm以下

施工代価表

代価第13号
 頁0032

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第9節-98頁
 1 基 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
バックホ運転費[標準型・クレーン機能付・排対型（1次）] 山積0.45m3[平0.35]2.9t吊		h			
【 合計 】	1	基			
【 単位当り 】	1	基			

施工代価表

【水道事業実務必携 (R6)】 第一編-第2章-第9節-102頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の5%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

ポリエチレン管(融着接合(EF接合))据付工
呼び径75mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
【 合計 】	10	m			
【 単位当り 】	1	m			

ポリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工
呼び径75mm 2口継手

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の8.5%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

ポリエチレン管(融着接合(EF接合))継手工
呼び径75mm 1口継手

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の8.5%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

通水試験工
試験距離：12.0m

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第5章-第1節-129頁 12.0 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
通水試験工					
給水車：不要		日			
【 合計 】	12.0	m			
【 単位当り 】	1	m			

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
バックホウ運転費[標準型・クレーン機能付・排対型（1次）] 山積0.45m3[平0.35]2.9t吊		h			
【 合計 】	1	基			
【 単位当り 】	1	基			

施工代価表

【水道事業実務必携 (R6)】 第一編-第2章-第9節-102頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第一編-第2章-第9節-101頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
トラック運転費[クレーン装置付]					
4～4.5t積 2.9t吊		h			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
無収縮モルタル					
鉄蓋用(25kg/袋)	0.009	m3			
【 合計 】	1	個			
【 単位当り 】	1	個			

上部壁設置工
円形4号 内寸600mm 高さ200mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第一編-第2章-第9節-102頁 1 個 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
【 合計 】	1	個			
【 単位当り 】	1	個			

下部壁設置工
円形4号 内寸600mm 高さ300mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第一編-第2章-第9節-102頁 1 個 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
【 合計 】	1	個			
【 単位当り 】	1	個			

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
【 合計 】	1	個			
【 単位当り 】	1	個			

フアンジ継手工
呼び径75(80)mm JWWA7.5K(F12)

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第3節-56頁 1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

ポリ水栓建込み工
ポリエチレン管 配水管呼び径100mm 取り出し径50mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-192頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

ホトル分水栓建込み工
ポリエチレン管 配水管呼び径100mm 取り出し径20mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第4節-192頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

サドル分水栓建込み工
ビニル管 配水管呼び径75mm 取り出し径20mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-192頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

ポリエチレン管据付工
呼び径50mm

施工代価表

代価第31号 頁0050

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
【 合計 】	10	m			
【 単位当り 】	1	m			

ポリエチレン管据付工
呼び径20mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 10 m 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
【 合計 】	10	m			
【 単位当り 】	1	m			

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

ポリエチレン管継手工
呼び径20mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

ポリエチレン管継手工
呼び径13mm

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第一編-第2章-第6節-86頁 1 口 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

ポリエチレン管切断工
呼び径50mm

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

ポリエチレン管切断工
呼び径20mm

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-193頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	口			
【 単位当り 】	1	口			

量水器取付け工(ねじ込み接合)
呼び径20mm 量水器及び筐取付

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】第二編-第1章-第4節-194頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

量水器取付け工(ねじ込み接合)
呼び径13mm 量水器及び筐取付

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第4節-194頁 1 箇所 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
配管工					
割増単価非公表の為割増無し		人			
普通作業員		人			
諸雑費	1	式			労務費の1%を上限とする
【 合計 】	1	箇所			
【 単位当り 】	1	箇所			

舗装版直接掘削積込工(小型バックホ)
舗装厚0cm超え10cm以下 バックホ 山積0.13m3[平積0.1m3]

施工代価表

代価第42号 頁0061

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第1節-167頁 100 m2 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役		人			
普通作業員		人			
小型バックホ運転 山積0.13m3[平積0.1m3]		日			
諸雑費	1	式			端数処理
【 合計 】	100	m2			
【 単位当り 】	1	m2			

アスファルト塊・コンクリート塊(無筋)運搬工
タンポトラック2t積 バックホウ山積0.13m3[平積0.10m3] DID区間あり 6.5km以
下 タイヤ良好

施工代価表

代価第43号 頁0062

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第1節-179頁 10 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
タンポトラック運転		日			
【 合計 】	10	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

人力 掘削
砂・砂質土 粘性土 礫質土

施工代価表

代価第44号 頁0063

10 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
山林砂防工		人			
【 合計 】	10	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

小型バックホウ掘削積込工
バックホウ 山積0.13m3〔平積0.1m3〕

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第1節-161頁 100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役		人			
普通作業員		人			
小型バックホウ運転 山積0.13m3〔平積0.1m3〕		日			
諸雑費	1	式			端数処理
【 合計 】	100	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

管路埋戻・締めめ工(機械埋戻・小型バックホ)
バックホ 山積0.13m3〔平積0.1m3〕 砂 クッション用ロス率：0.26

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第1節-164頁 100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役		人			埋め戻し
普通作業員		人			埋め戻し
普通作業員		人			クソバ 締めめ
小型バックホ運転 山積0.13m3〔平積0.1m3〕		日			投入
クソバ 運転		日			クソバ 締めめ
砂 クッション用	126	m3			ロス率0.26
諸雑費	1	式			端数処理
【 合計 】	100	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

管路埋戻・締固め工(機械埋戻・小型バックホ)
バックホ 山積0.13m3〔平積0.1m3〕 再生クラッシャーラン RC-40ロス率：0.26

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第1節-164頁 100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役		人			埋め戻し
普通作業員		人			埋め戻し
普通作業員		人			タンバ 締固め
小型バックホ運転 山積0.13m3〔平積0.1m3〕		日			投入
タンバ 運転		日			タンバ 締固め
再生クラッシャーラン RC-40	126	m3			ロス率0.26
諸雑費	1	式			端数処理
【 合計 】	100	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

管路埋戻・締め工(機械埋戻・小型バックホ)
バックホ 山積0.13m3〔平積0.1m3〕 発生土

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第1節-164頁 100 m3 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役		人			埋め戻し
普通作業員		人			埋め戻し
普通作業員		人			クハ 締め
小型バックホ運転 山積0.13m3〔平積0.1m3〕		日			投入
クハ 運転		日			クハ 締め
諸雑費	1	式			端数処理
【 合計 】	100	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

発生土運搬工
ダンプトラック2t積 バックホウ山積0.13m3〔平積0.10m3〕 DID区間なし 9.0km以
下 タイヤ良好

施工代価表

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
ダンプトラック運転		日			
【 合計 】	10	m3			
【 単位当り 】	1	m3			

路盤工(施工幅1.8m未満)
2層仕上げ 仕上り厚35cm 再生クランチャーラン RC-40

施工代価表

代価第50号 頁0069

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第1節-170頁 100 m2 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
普通作業員		人			
再生クランチャーラン RC-40	44.45	m3			100*(35/100)*(1+0.27)
クランパ 運転		日			
諸雑費	1	式			端数処理
【 合計 】	100	m2			
【 単位当り 】	1	m2			

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
土木一般世話役		人			
特殊作業員		人			
普通作業員		人			
アスファルト混合物 エコスラ入り再生密粒度アスコン(20)	12.573	t			100*(5/100)*2.35*(1+0.07)
アスファルト乳剤 PK-3 フライムコート用	126	L			
振動ローラ運転		日			
振動コンパクタ運転		日			
砂散布費	1	式			(労+機)の3%
諸雑費	1	式			(労+機)の17%を上限とする

舗装工(人力施工)
車道及び路肩 仕上り厚5cm フライムコート 砂散布あり アスファルト混合物(エコスラ
グ入り再生密粒度アスコン(20))

施工代価表

【水道事業実務必携(R6)】 第二編-第1章-第1節-179頁 100 m2 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
【 合計 】	100	m2			
【 単位当り 】	1	m2			

交通誘導警備員B
昼間勤務(8:00～17:00) 実働8時間(交替要員無し)

施工代価表

代価第52号 頁0072

【土木工事標準積算基準書(共通編)(R6)】Ⅱ-5-21-1 1 式 当り

名 称 ・ 規 格 な ど	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
交通誘導警備員B 昼間勤務(8:00～17:00) 実働8時間(交替要員無し)		人			
【 合計 】	1	式			
【 単位当り 】	1	式			

舗装版切断
アスファルト舗装版, 15cm以下, -, -

施工パッケージ

積算単位：m

区分	代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	補正式	備 考
K 東京	機械	6.05			
K1 東京	コンクリートカッタ〔ハキューム式・湿式〕 切削深20cm級ﾌﾟﾚｰﾄﾞ 径φ56cm	4.09			令和7年度版建設機械等損料表11-9
R 東京	労務	55.5			
R1 東京	特殊作業員	19.28			
R2 東京	土木一般世話役	9.9			
R3 東京	普通作業員	8.33			
Z 東京	材料	38.45			
Z1 東京	ﾌﾟﾚｰﾄﾞ (コンクリートカッタ) 径22ｲﾝﾁ	35.21			
Z2 東京	ｶﾞｿﾘﾝ ｴｷﾞｬｰ ｽﾀﾝﾄﾞ	2.19			

舗装版切断
アスファルト舗装版, 15cm以下, -, -

施工パッケージ

積算単位：m

区分	代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	補正式	備 考
	*** 単位当り ***				
	積算単価（地区：008 矢板（09 栃木県）／2025-09-10）				
	標準単価				

コンクリート

小型構造物, 人力打設, 生コンクリート 高炉・普通 18-8-25 (W/C指定なし), -
, 一般養生, -, 有り, -

施工パッケージ

施工第2号

頁0075

【土地改良工事積算基準(土木) (R6)】 施工パッケージ 3-②

積算単位：m3

区分	代 表 機 労 材 規 格	構成比	単 価	補正式	備 考
K 東京	機械	0			
R 東京	労務	49.95			
R1 東京	普通作業員	30.88			
R2 東京	土木一般世話役	8.85			
R3 東京	特殊作業員	7.87			
Z 東京	材料	50.05			
Z1 東京	生コンクリート 高炉・普通 18-8-25 (W/C指定なし)	50.05			現場付近道路渡し
	*** 単位当り ***				
	積算単価 (地区：008 矢板 (09 栃木県)／2025-09-10)				
	標準単価				

公表単価一覧表

1/2ページ

工事名：配水管布設工事 第10号

名称	規格	単位	単価：円	適用区分			備考
				機	労	材	
PVジョイント片落管	PE管用 内面粉体 HPPE φ100×VP φ75	個	58,200			○	
VP用鋳鉄曲管 45°	内面粉体 φ75 離脱防止金具付	個	38,700			○	
サドル分水栓キャップ	φ20	個	890			○	
ロケーティングワイヤー	100m=1巻	m	350			○	
管明示テープ	幅30mm 長さ20m/個 年号入	m	110			○	
PVジョイント	PE管用 内面粉体 φ75	個	43,300			○	
仕切弁筐	浅埋用、φ50～φ200 座台共	基	105,000			○	
PE挿口付鋳鉄製フランジ付T字管	φ100×75 7.5K	個	98,100			○	
地下式単口消火栓(浅埋用)	内面粉体 φ75×65	基	106,000			○	
消火栓用鉄蓋	円形 φ600 鉄蓋、受枠共	組	138,000			○	
消火栓・空気弁用ボックス	上部壁 内径600 H200	個	53,000			○	
消火栓・空気弁用ボックス	下部壁 内径600 H300	個	37,000			○	
消火栓・空気弁用ボックス	底版 内径600 H40	個	32,000			○	
フランジ接合材	φ75 芯金入パッキン、ステンボルト・ナット共	組	13,900			○	
分水サドル	PE管用 サドル式 φ100×50 フィルム共	個	75,000			○	
分水サドル	PE管用 サドル式 φ100×20 フィルム共	個	28,700			○	
分水サドル	塩ビ管用 φ75×20 フィルム共	個	19,700			○	
メーターバルブ伸縮	φ20	個	19,300			○	
メーターバルブ伸縮	φ13	個	13,200			○	
メーターユニオン(回転式)	φ20	個	5,840			○	
メーターユニオン(異径、回転式)	φ13×20P	個	5,450			○	
ボール式止水栓	φ20	個	10,600			○	
止水栓筐(蓋FCD)	SSD100 100×450	個	5,960			○	

(備考)

- 1 本表に記載されている単価は、見積り及び特別調査により決定したものである。
- 2 適用区分に○印があるものは、下記の価格を示す。
「機」：機械器具等の損料または賃料
「労」：労務費
「材」：材料費

公 表 單 價 一 覽 表

2/2ページ

工事名：配水管布設工事 第10号

[illegible]

(備考)

- 1 本表に記載されている単価は、見積り及び特別調査により決定したものである。
2 適用区分に○印があるものは、下記の価格を示す。

「機」：機械器具等の損料または賃料

「勞」：勞務費

「材」：材料費

配 水 管 布 設 工 事

安 沢 2 地 区 数 量 計 算 書

1. HPPE ϕ 100 mm 布設工

1) HPPE ϕ 100mm 布設工

L= 320.99 m (水平距離 L= 320.99 m)

2) 仕切弁設置工

ϕ 100mm 3 か所

3) 消火栓設置工

ϕ 75mm 1 か所

4) 給水管分岐替工

1 式

2. HPPE ϕ 75 mm 布設工

1) HPPE ϕ 75mm 布設工

L= 12.00 m (水平距離 L= 12.00 m)

2) 仕切弁設置工

ϕ 75mm 1 か所

3) 消火栓設置工

ϕ 75mm か所

4) 給水管分岐替工

1 式

3. PP ϕ 50 mm 布設工

1) PP ϕ 50mm 布設工

L= m (水平距離 L= m)

2) 給水管分岐替工

式

1. HPPE ϕ 100mm布設工

- 1). HPPE ϕ 100mm布設工 L = 320.99 m (水平距離 L = 320.99 m)
- 2). 仕切弁設置工 ϕ 100 mm 3 箇所
- 3). 消火栓設置工 ϕ 75 mm 1 箇所
- 4). 給水管分岐替工 1 式

1-1). HPPE ϕ 100mm布設工

1-2). 仕切弁設置工

1-3). 消火栓設置工

配 管 材 料 集 計 表

HPPEφ100

名 称	形状・寸法	単位	L		数 量	単位長	延 長	備 考
1) HPPE布設工	φ100mm							
EF 直 管	φ 100 × 5m	本	(62+2) 64		64			切管2本
EFベンド(両受)	φ 100 × 45°	個	3		3			
EF片受ベンド	φ 100 × 45°	個	1		1			
EFチーズ(両受)	φ 100 × 100	個	1		1			
EF ソ ケ ッ ト	φ 100	個	6		6			
VP用異種管継手 (HPPE100 × VP75)	φ 100 × 75	個	1		1			
VPベンド(両受)	φ 75 × 45°	個	2		2			
VP 直 管	φ 75 × 5m	本	1		1			
K 型 特 殊 押 輪	付属品含む φ100	組						
分水栓キャップ	φ 30	個						
分水栓キャップ	φ 20	個	1		1			
ロケーティング ワ イ ヤ ー		m	320.99		321.0			
埋 設 シ ー ト	幅150mm	m	320.99		321.0			
明 示 テ ー プ	幅30mm 長さ20m/個 年号入	m	151.3	※	151.3			
			※ 320.99 / 5 × 4 × 0.125 × π × 1.5					
2) 仕切弁設置工	(3か所)							
PE挿し口付ソフト シール仕切弁	φ 100	基	3		3			
仕 切 弁 鉄 筐	浅埋用 φ50~200座台共	基	3		3			
3) 消火栓設置工	(1か所)							
PE 挿 し 口 付 鑄鉄製T字管	φ 100 × 75	個	1		1			
ボール式補修弁	φ 75 × 150	個	1		1			
単 口 消 火 栓	浅埋形・空気弁付 φ75×65	個	1		1			
鉄 蓋	消火栓用鉄蓋 円形φ 600 鉄蓋、受枠共	組	1		1			
消火栓・空気弁 用 ボ ッ ク ス	上部壁 内径600 H200	組	1		1			
消火栓・空気弁 用 ボ ッ ク ス	下部壁 内径600 H300	個	1		1			
消火栓・空気弁 用 ボ ッ ク ス	底版 内径600 H40	個	1		1			
フランジ接合材	φ75芯金入パッキン、ステン レスボルト、ナット共	組	2		2			

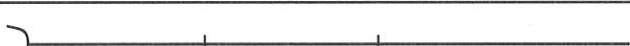
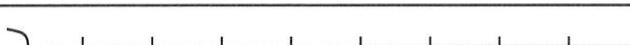
切管組合せ調書

HPPE φ100mm直管 1本延長= 5.00 m

番号	切管組合せ	原管形状	管種	有効長	残管長	切断口数	備考
10	 0.89 0.38 0.38 0.30 0.72 0.30 0.34 0.64 0.34	EF直管	HPPE	2.21	2.79	4	
11	 1.85 2.27	EF直管	HPPE	4.12	0.88	2	
計	11 本			6.33	3.67	6	

切管組合せ調書

VPφ75mm直管1本延長= 4.00 m

番号	切管組合せ	原管形状	管種	有効長	残管長	切断口数	備考
1	①HPPEφ100→既設75接続 ②HPPEφ75L2既設接続 11 0.71 0.71	VP直管	VP	1.42	2.58	2	
							
							
							
							
							
							
							
							
							
							
計	0 本			1.42	2.58	2	

勞 務 費 集 計 表

HPPE ϕ 100[illegible]

1-4). 給水管分岐替工

給水管分岐替工 (材料費)

(3/3)

[illegible]

HPPE ϕ 100
給水管分岐替工 (労務費)

(2/3)

[illegible]

HPPE ϕ 100
給水管分岐替工 (労務費)

(3/3)

[illegible]

2. HPPE ϕ 75mm布設工

1). HPPE ϕ 75mm布設工 L = 12.00 m (水平距離 L = 12.00 m)

2). 仕切弁設置工 ϕ 75 mm 1 か所

2-1). HPPE ϕ 75mm布設工

2-2). 仕切弁設置工

配管材料集計表

HPPE ϕ 75[illegible]

勞 務 費 集 計 表

HPPE ϕ 75[illegible]

[illegible][illegible]

HPPE φ100mm 土工延長調書

L = 320.99 m (水平 L = 320.99 m)

1. 車道 (DP=1.20m)

別紙県道位置

L = 1.00 m (水平 L = 1.00 m)

2. 車道 (DP=0.70m)

NO. 0 + 1.16 ~ NO. 4 + 16.35	L =	m (水平 L =	m)
NO. 4 + 28.77 ~ NO. 8 + 1.40	L =	m (水平 L =	m)
NO. 8 + 2.59 ~ NO. 8 + 22.68	L =	m (水平 L =	m)
NO. 8 + 24.72 ~ NO. 9 + 10.72	L =	m (水平 L =	m)
NO. 9 + 17.34 ~ NO. 11 + 21.22	L =	m (水平 L =	m)
NO. 11 + 25.78 ~ NO. 13 + 45.76	L =	m (水平 L =	m)
NO. 13 + 47.44 ~ NO. 15 + 2.85	L =	m (水平 L =	m)
NO. 15 + 4.15 ~ NO. 16 + 34.37	L =	m (水平 L =	m)
NO. 16 + 36.43 ~ NO. 17	L =	m (水平 L =	m)
NO. 17 + NO. 21 + 42.98	L = 242.98	m (水平 L = 242.98	m)
NO. 21 + 45.02 ~ NO. 23 + 23.03	L = 78.01	m (水平 L = 78.01	m)
計	L = 320.99	m (水平 L = 320.99	m)

3. 下越工 (1)

NO. 4 + 16.35 ~ NO. 4 + 28.77 L = m (水平 L = m) - 場所

4. 下越工 (2)

NO. 8 + 1.40 ~ NO. 8 + 2.59 L = m (水平 L = m) - 場所

5. 下越工 (3)

NO. 8 + 22.68 ~ NO. 8 + 24.72 L = m (水平 L = m) - 場所

6. 下越工 (4)

NO. 9 + 10.72 ~ NO. 9 + 17.34 L = m (水平 L = m) - 場所

7. 下越工(5)

N0.11 + 21.22 ~ N0.11 + 25.78 L = m (水平 L = m) - 1 箇所

8. 下越工(6)

N0.13 + 45.76 ~ N0.13 + 47.44 L = m (水平 L = m) - 1 箇所

9. 下越工(7)

N0.15 + 2.85 ~ N0.15 + 4.15 L = m (水平 L = m) - 1 箇所

10. 下越工(8)

N0.16 + 34.37 ~ N0.16 + 36.43 L = m (水平 L = m) - 1 箇所

11. 下越工(9)

N0.21 + 42.98 ~ N0.21 + 45.02 L = 2.46 m (水平 L = 2.04 m) - 1 箇所

12. 栓止工 (既設管φ100)

φ 30 - 1 箇所

φ 20 - 1 箇所

計 2 箇所

13. 既設仕切弁・消火栓撤去工 - 1 箇所

管 布 設 土 工 集 計

[illegible]

[illegible]

[illegible]

DP= 0.70 m

L= 320.99 m

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible]

土工

⑪ 下越工(9)HPPE ϕ 100mm

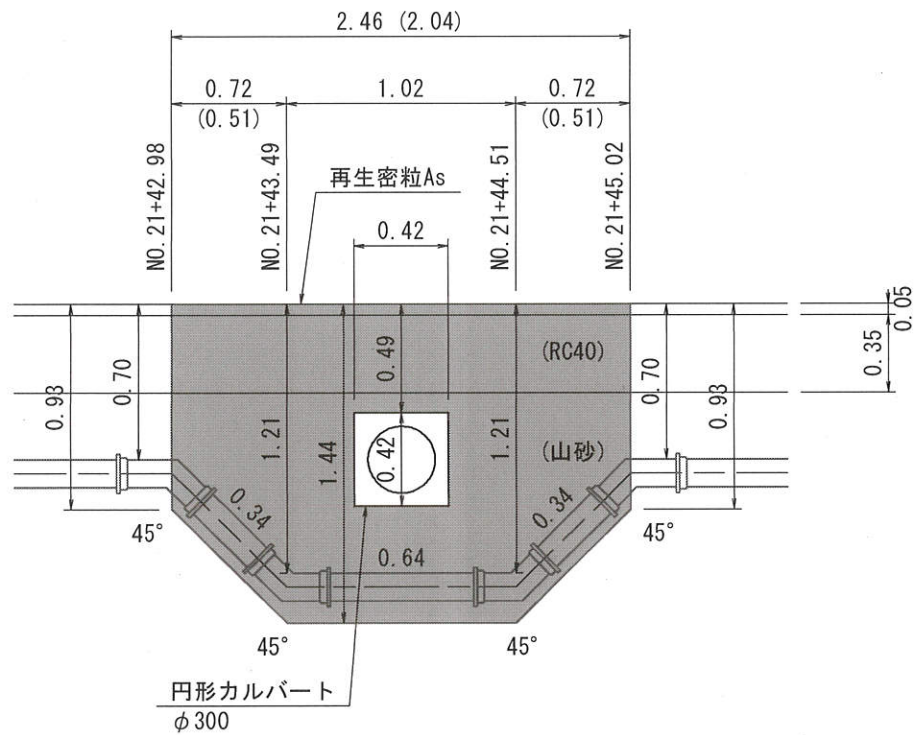
n= 1 か所

[illegible]

下越工(9)土工算出図

(1か所当り)

$$B = 0.60 \text{ m}$$



既設舗装 t=5cm

As舗装版切断(t=15cm以下)	2.04×2	=	4.08 m
舗装版直接掘削積込(t=5cm)	2.04×0.60	=	1.22 m ²
機械掘削	$\{ (0.88 + 1.39) \times 1/2 \times 0.51 \times 2 + 1.39 \times 1.02 - 0.42 \times 0.42 \} \times 0.60$	=	1.44 m ³
表層(再生密粒As(20)-50) t=5cm	2.04×0.60	=	1.22 m ²
路盤工(RC40) t=35cm	2.04×0.60	=	1.22 m ²
山砂埋戻	$\{ (0.53 + 1.04) \times 1/2 \times 0.51 \times 2 + 1.04 \times 1.02 - 0.42 \times 0.42 \} \times 0.60$	=	1.01 m ³
残土処理(土砂)		=	1.44 m ³
残土処理(As塊)	1.22×0.05	=	0.06 m ³

[illegible]

[illegible]

土工单位数量表

[illegible]

既設仕切弁・消火栓撤去工

既設管VPφ75mm DP=1.20m (計 1か所)

1. 仕切弁 φ75

N0.17 + 38.5 付近	1 か所			
	(弁体)	(弁筐)		
仕切弁φ75撤去重量	(38 + 45)	× 1	=	83 kg
塩ビ管切断 (φ75)	2 口/か所	× 1	=	2 口

2. 消火栓

N0.16 + 25.0 付近	か所			
	(消火栓)	(鉄筐)	(短管)	
消火栓撤去重量	(	+	+	) × 1 = 0.0 kg
塩ビ管切断 (φ75)	2 口/か所	× 1	=	口

3. 計

撤去重量	83 + 0.0	=	83.0 kg
塩ビ管切断 (φ75)	2 + 0	=	2 口

HPPE φ 75mm 土工延長調書

L = 12.00 m (水平 L = 12.00 m)

1. 車道 (DP=1.10m)

(L1) NO.0 ~ NO.0 + 0.60 L = m (水平 L = m)

2. 車道 (DP=0.70m)

(L1) NO.0 + 0.60 ~ NO.1 + 13.67 L = m (水平 L = m)

(L1) NO.1 + 14.93 ~ NO.3 + 4.51 L = m (水平 L = m)

(L2) NO.0 ~ NO.0 + 12.00 L = 12.00 m (水平 L = 12.00 m)

(L2) NO.0 + 12.00 ~ NO.2 + 42.06 L = m (水平 L = m)

(L2) NO.2 + 43.54 ~ NO.3 + 1.40 L = m (水平 L = m)

計 L = 12.00 m (水平 L = 12.00 m)

3. 下越工(10)

(L1)

NO.1 + 13.67 ~ NO.1 + 14.93 L = m (水平 L = m) - 場所

4. 下越工(11)

(L2)

NO.2 + 42.06 ~ NO.2 + 43.54 L = m (水平 L = m) - 場所

5. 既設仕切弁・消火栓撤去工 - 場所

管 布 設 土 工 集 計

[illegible]

[illegible]

HPPE ϕ 100
給水管分岐替工 (土工延長)

(2/3)

[illegible]

給水管分岐替工 (土工延長)

(3/3)

[illegible]

給水管分岐替工土工集計

[illegible]

道路内土工集計

[illegible]

[illegible]

土工单位数量表

[illegible]

[illegible]

DP= 0.70 m

L= 10.4 m

[illegible]

土工单位数量表

[illegible]

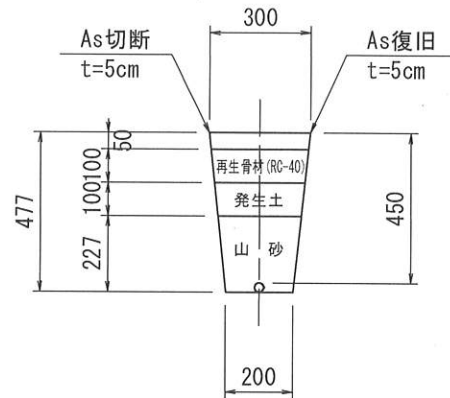
宅地内土工集計

[illegible]

[illegible]

宅地内土工単位数量表

PP ϕ 20mm (As) DP=0.45m



宅地内 As部 DP=0.45m

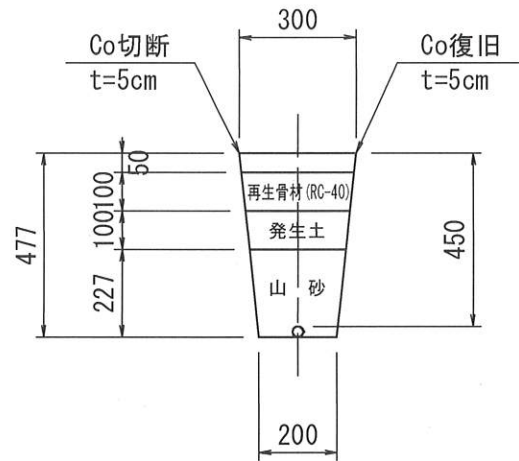
As舗装版切断	$L = 1.00 \times 2$	=	2.000 m/m
As舗装版破碎	$A = 0.30 \times 1.00$	=	0.300 m ² /m
機械掘削	$V = 0.25 \times 0.427 \times 1.00$	=	0.107 m ³ /m
山砂埋戻	$V = 0.225 \times 0.227 \times 1.00$	=	0.051 m ³ /m
発生土埋戻	$V = 0.25 \times 0.10 \times 1.00$	=	0.025 m ³ /m
再生骨材埋戻	$V = 0.30 \times 0.10 \times 1.00$	=	0.030 m ³ /m
アスファルト廃材	$V = 0.30 \times 0.05 \times 1.00$	=	0.015 m ³ /m
アスファルト復旧	$A = 0.30 \times 1.00$	=	0.300 m ² /m
残土処分	$V = 0.107 - 0.025 \div 0.90$	=	0.079 m ³ /m

口径・工種別数量計算書

[illegible]

宅地内土工単位数量表

PP φ 20mm (Co) DP=0.45m



宅地内 Co部 DP=0.45m

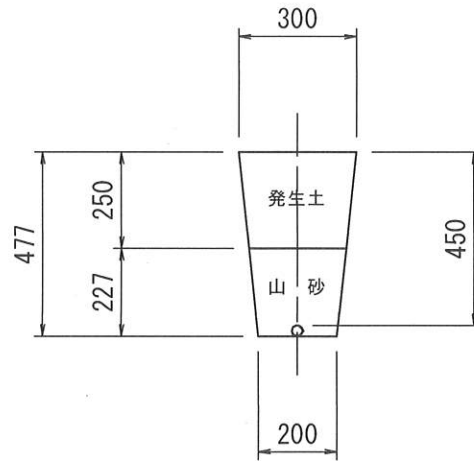
Co取壊し	$V = 0.30 \times 0.05 \times 1.00$	=	$0.015 \text{ m}^3/\text{m}$
機械掘削	$V = 0.25 \times 0.427 \times 1.00$	=	$0.107 \text{ m}^3/\text{m}$
山砂埋戻	$V = 0.225 \times 0.227 \times 1.00$	=	$0.051 \text{ m}^3/\text{m}$
発生土埋戻	$V = 0.25 \times 0.10 \times 1.00$	=	$0.025 \text{ m}^3/\text{m}$
再生骨材埋戻	$V = 0.30 \times 0.10 \times 1.00$	=	$0.030 \text{ m}^3/\text{m}$
コンクリート廃材	$V = 0.30 \times 0.05 \times 1.00$	=	$0.015 \text{ m}^3/\text{m}$
コンクリート復旧	$V = 0.30 \times 0.05 \times 1.00$	=	$0.015 \text{ m}^3/\text{m}$
残土処分	$V = 0.107 - 0.025 \div 0.90$	=	$0.079 \text{ m}^3/\text{m}$

口径・工種別数量計算書

[illegible]

宅地内土工单位数量表

PP ϕ 20mm (Gr) DP=0.45m

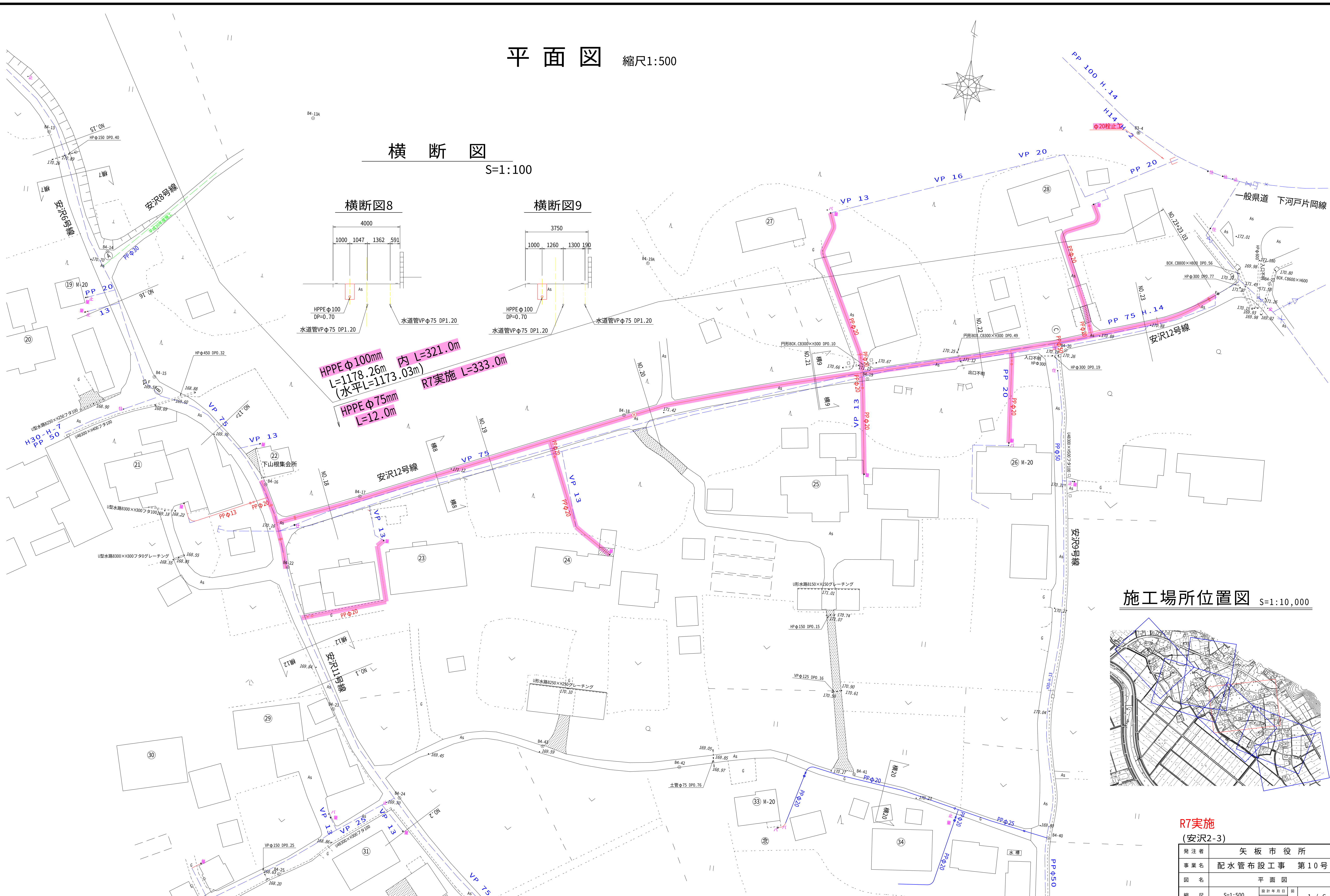


$$\text{平均掘削幅} = 1/2 \times (300+200) = 250$$

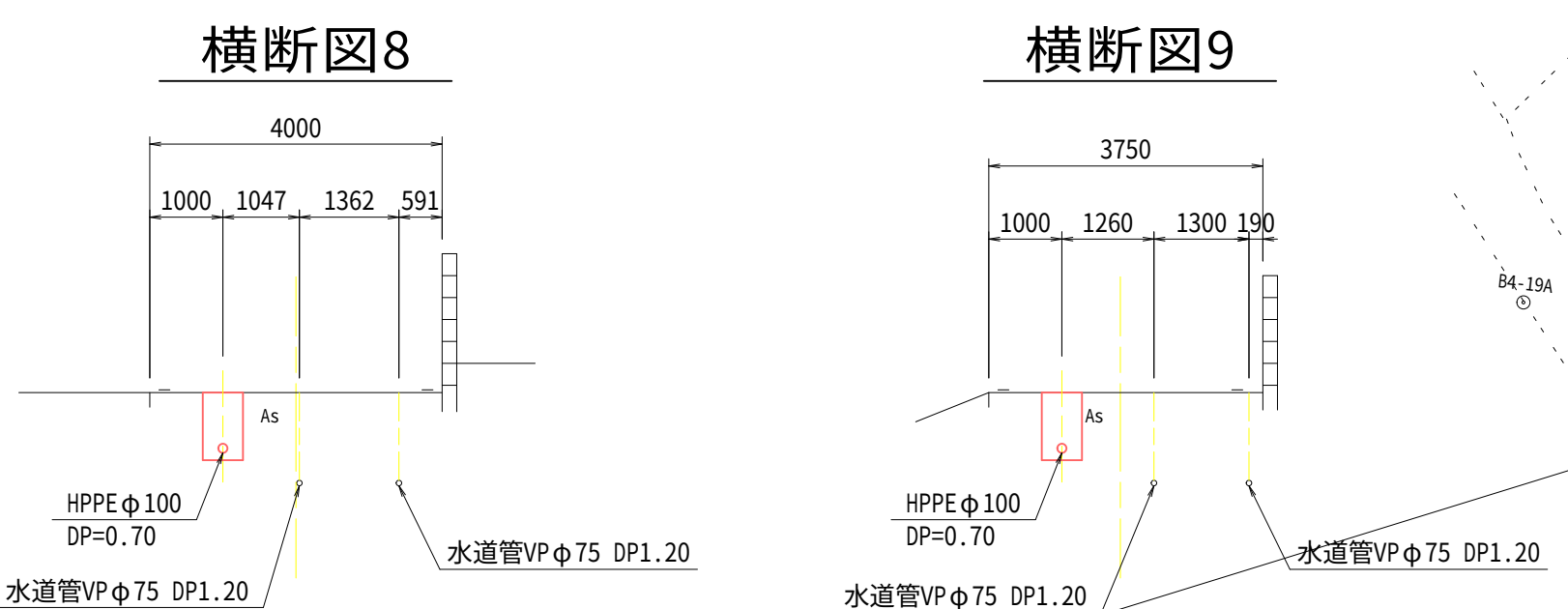
宅地内 Gr部 DP=0.45m

機械掘削	$V = 0.25 \times 0.477 \times 1.00$	$= 0.119 \text{ m}^3/\text{m}$
山砂埋戻	$V = 0.225 \times 0.227 \times 1.00$	$= 0.051 \text{ m}^3/\text{m}$
発生土埋戻	$V = 0.25 \times 0.250 \times 1.00$	$= 0.063 \text{ m}^3/\text{m}$
残土処分	$V = 0.119 - 0.063 \div 0.90$	$= 0.049 \text{ m}^3/\text{m}$

平面図 縮尺1:500



横断図 S=1:100



施工場所位置図 S=1:10,000



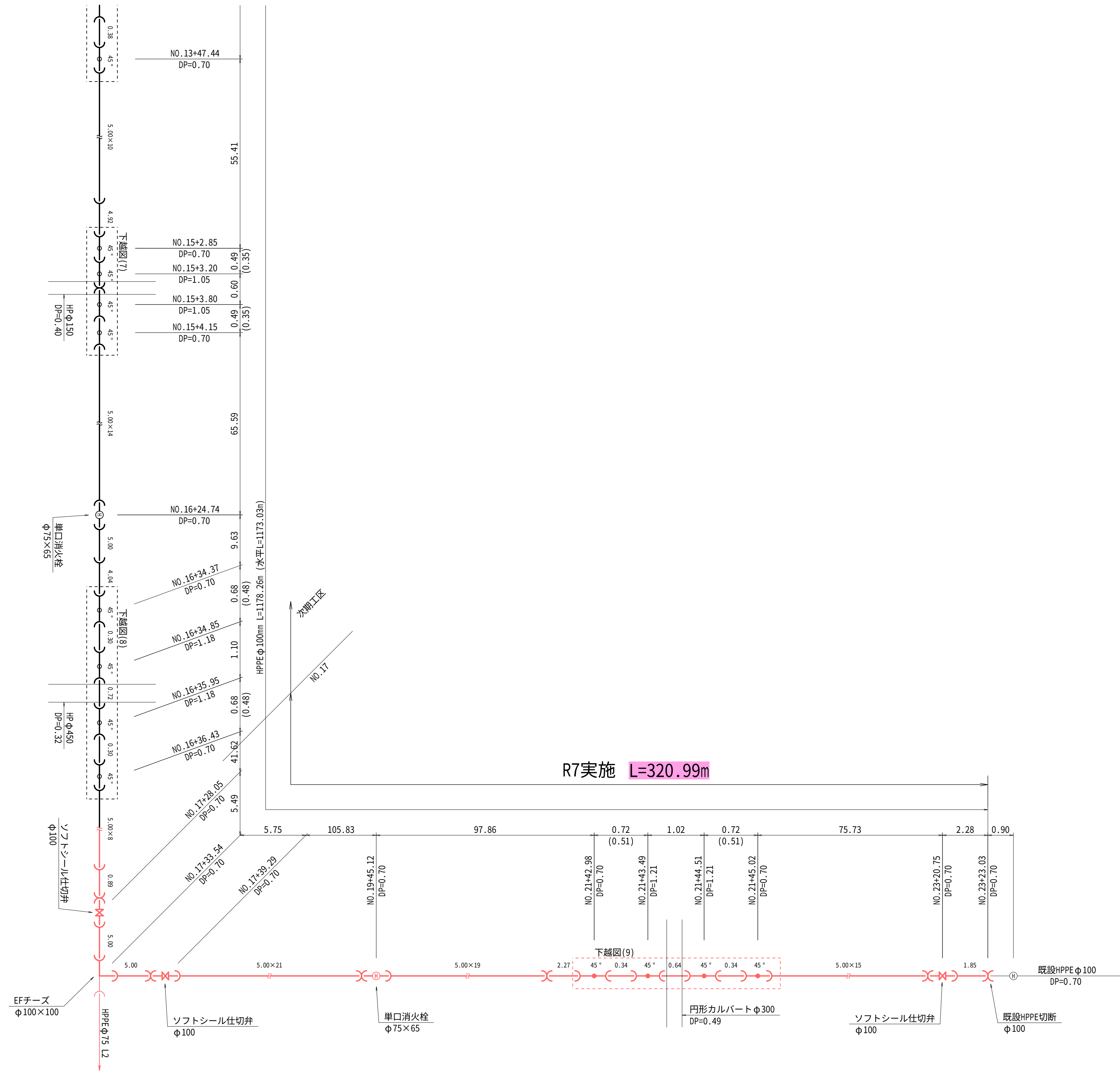
R7実施
(安沢2-3)

発注者	矢板市役所				
事業名	配水管布設工事 第10号				
図名	平面図				
縮尺	S=1:500	設計年月日	図番	1 / 6	
校印	所長	設計	製図		

配管図 (2)

S=Free

HPPE φ 100



R7実施

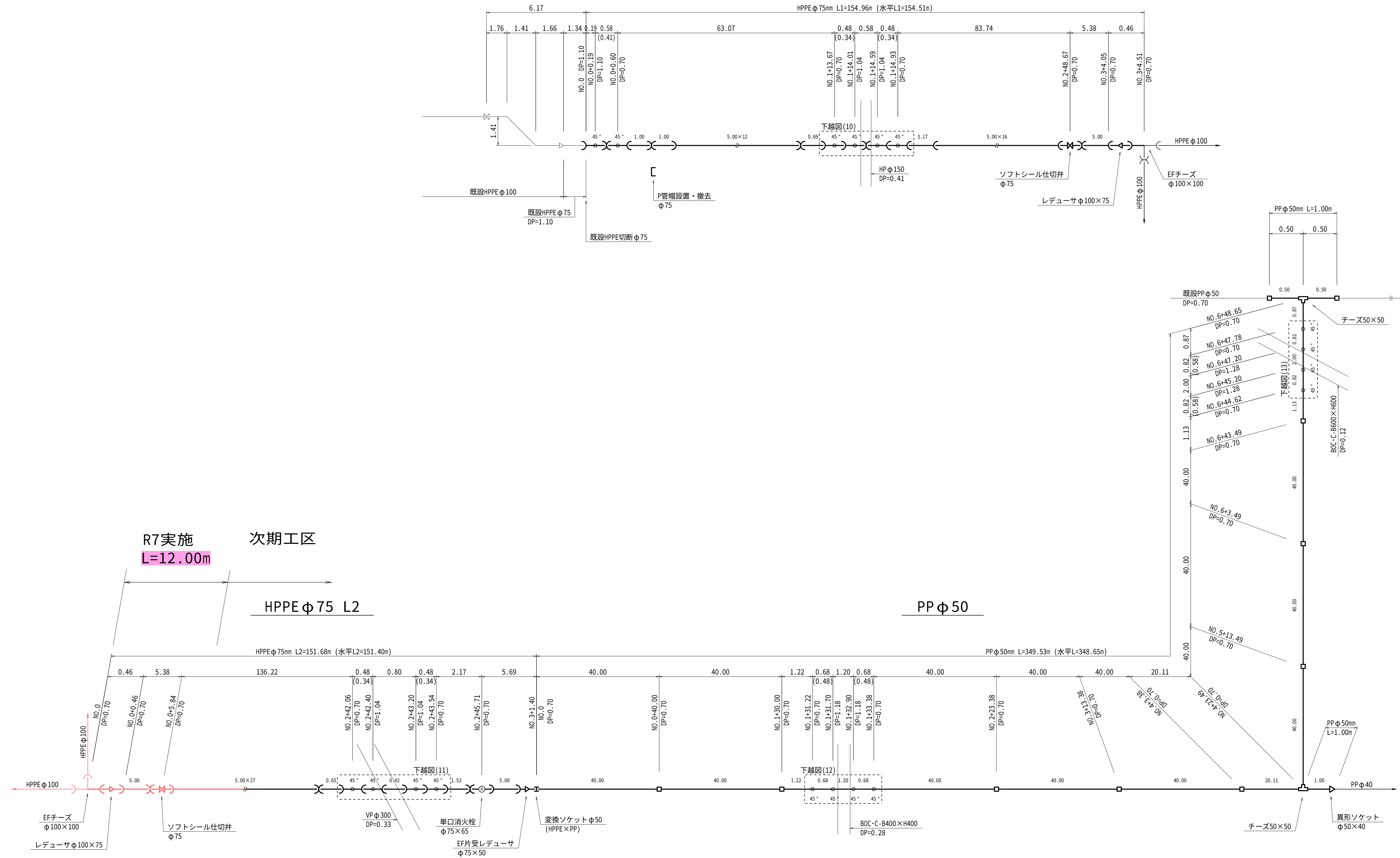
(安沢2-10)

発注者	矢板市役所				
事業名	配水管布設工事 第10号				
図名	配管図(2)				
縮尺	図示	設計年月日	図番	2 / 6	
検印	所長	設計	製図		

配管図 (3)

S=Free

HPPE φ 75 L1

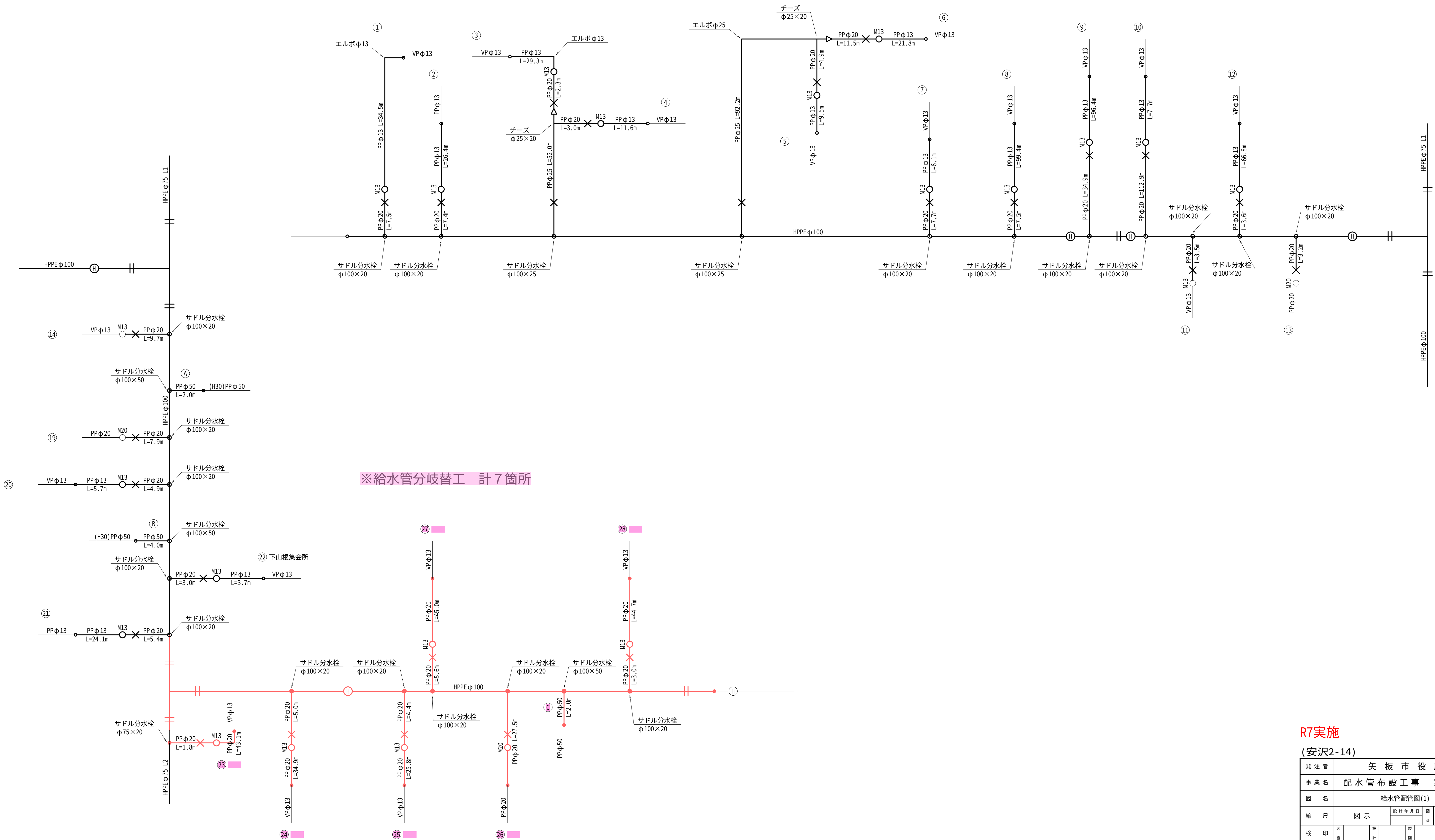


発注者	矢板市役所				
事業名	配水管布設工事 第10号				
図名	配管図(3)				
縮尺	図示	設計年月日	図番	3 / 6	
検印	所長	設計	製図		

給水管配管図(1)

S=Free

HPPEφ100mm区間



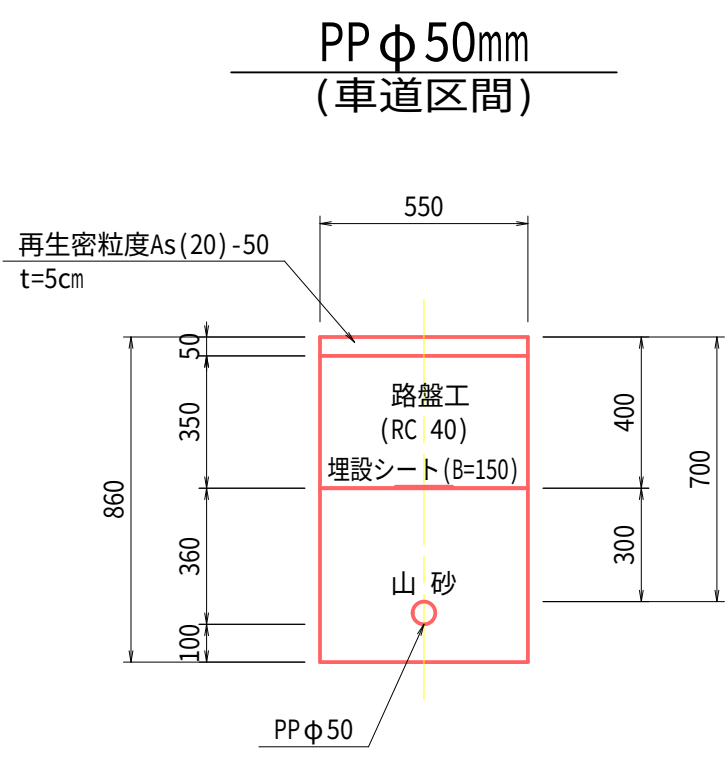
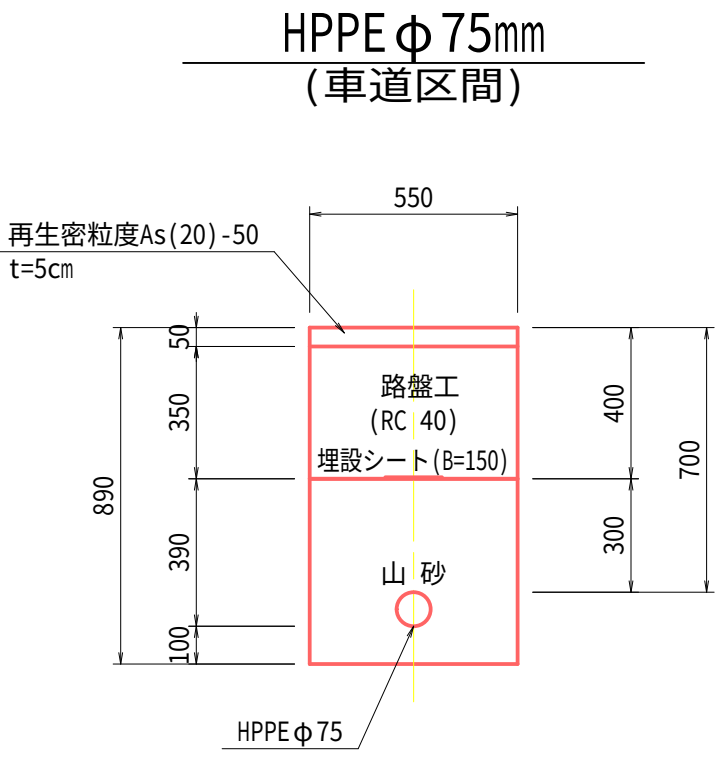
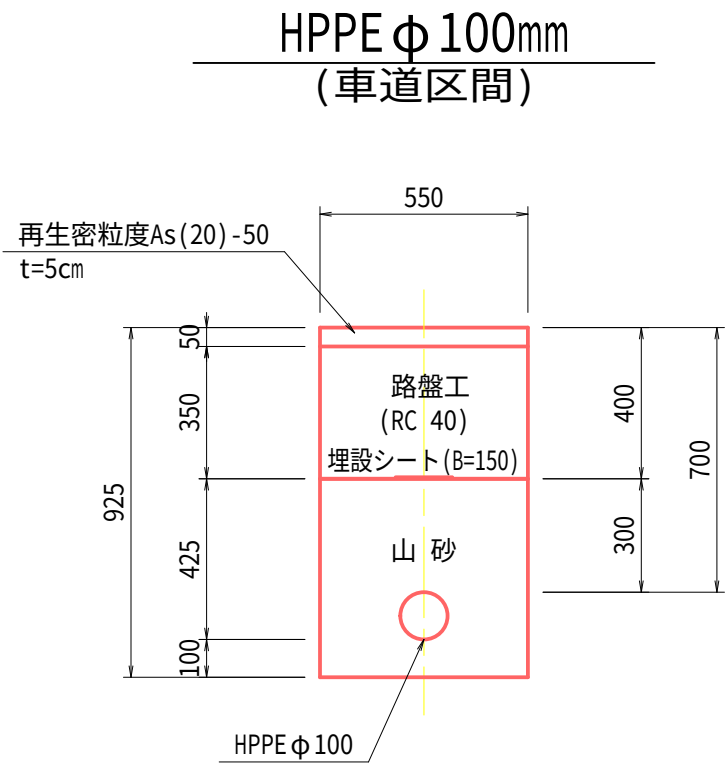
R7実施

(安沢2-14)

発注者	矢板市役所				
事業名	配水管布設工事 第10号				
図名	給水管配管図(1)				
縮尺	図示	設計年月日	図番	4 / 6	
検印	所長	設計	製図		

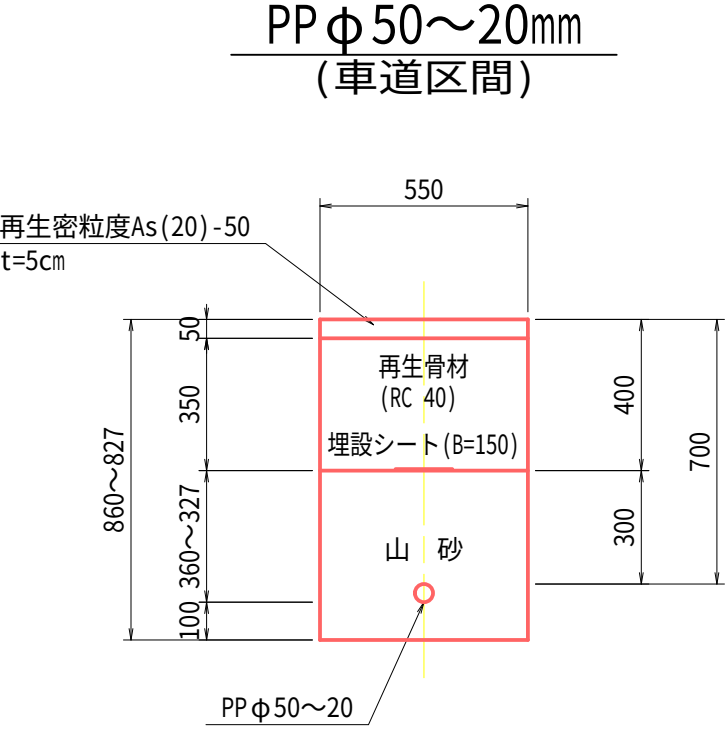
標準土工定規図

S=1:20



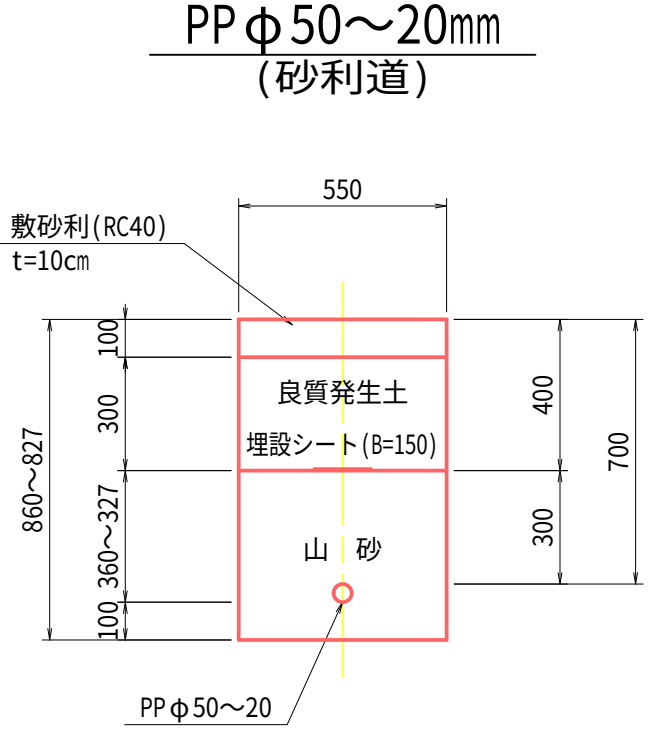
給水管土工定規図

S=1:20



PP管 外径表

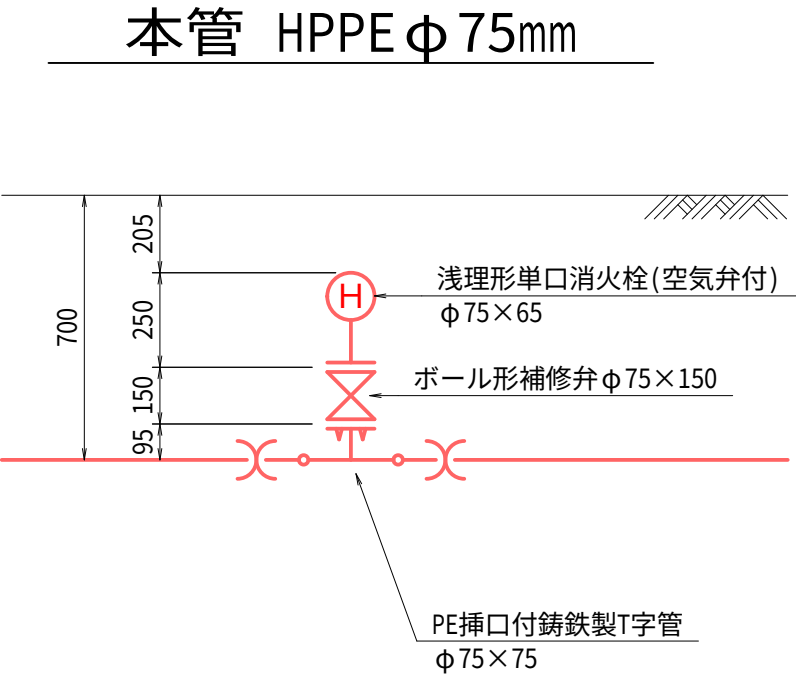
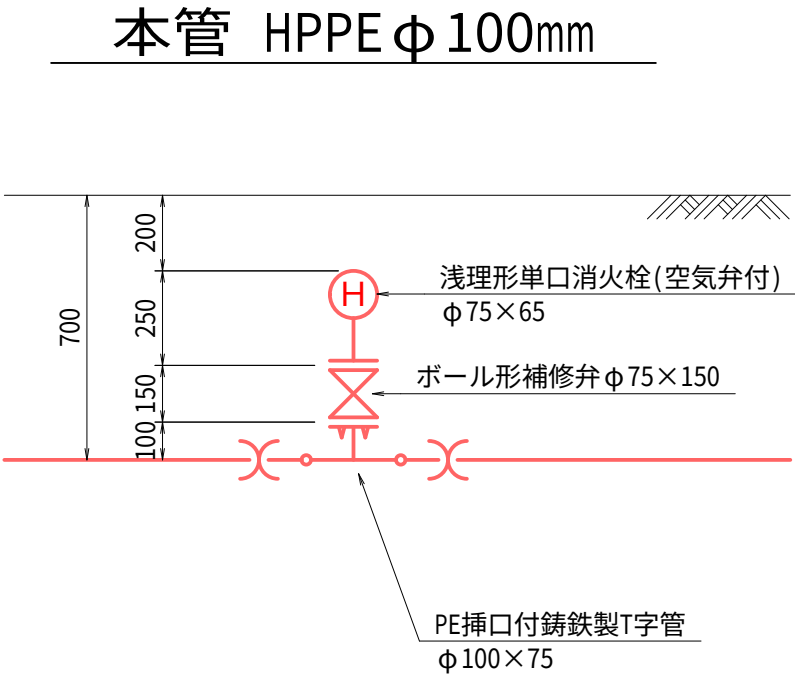
呼び径	外径
φ50	φ60
φ40	φ48
φ30	φ42
φ25	φ34
φ20	φ27



消火栓設置詳細図

(DP 0.70)

S=Free

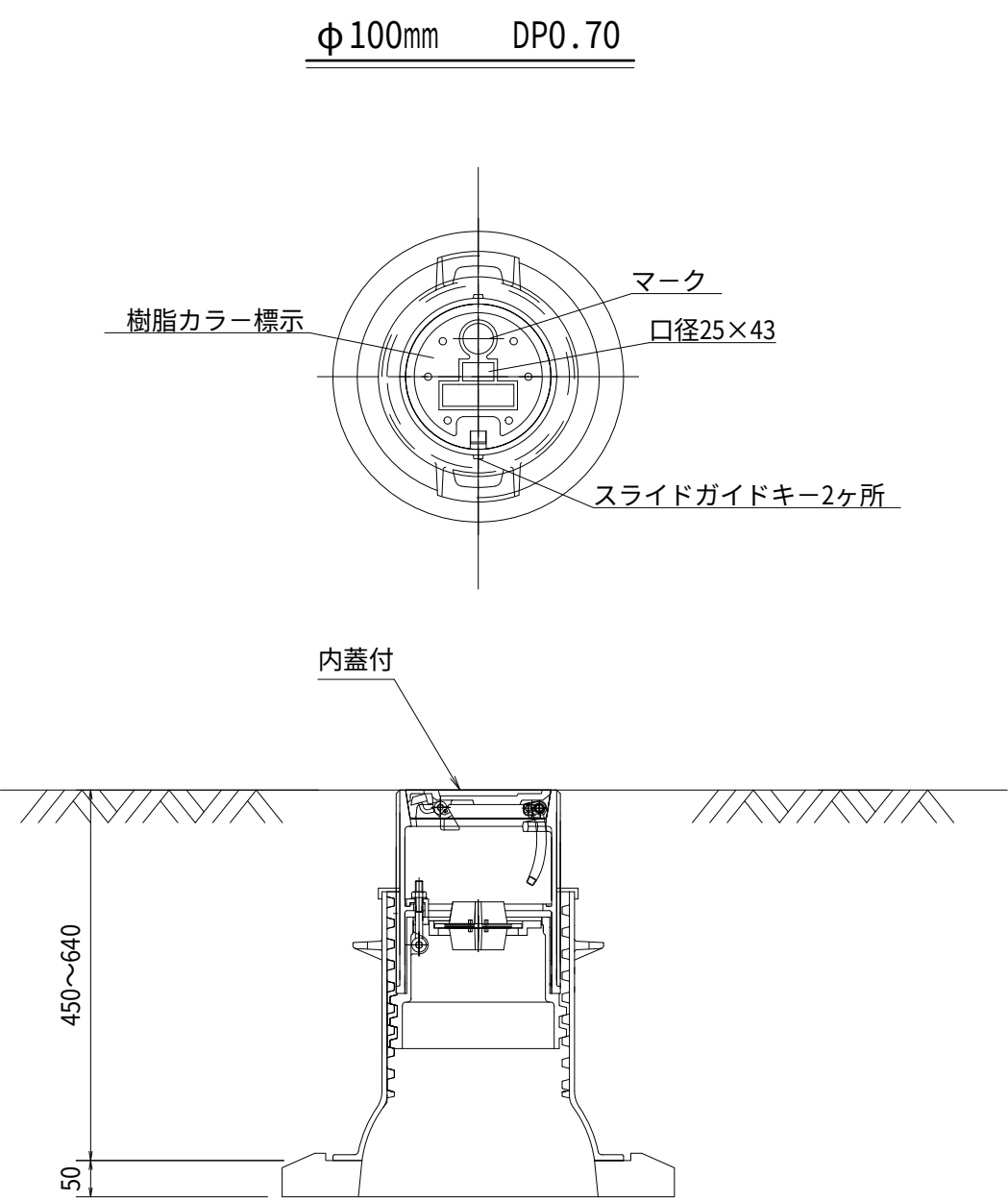


R7実施

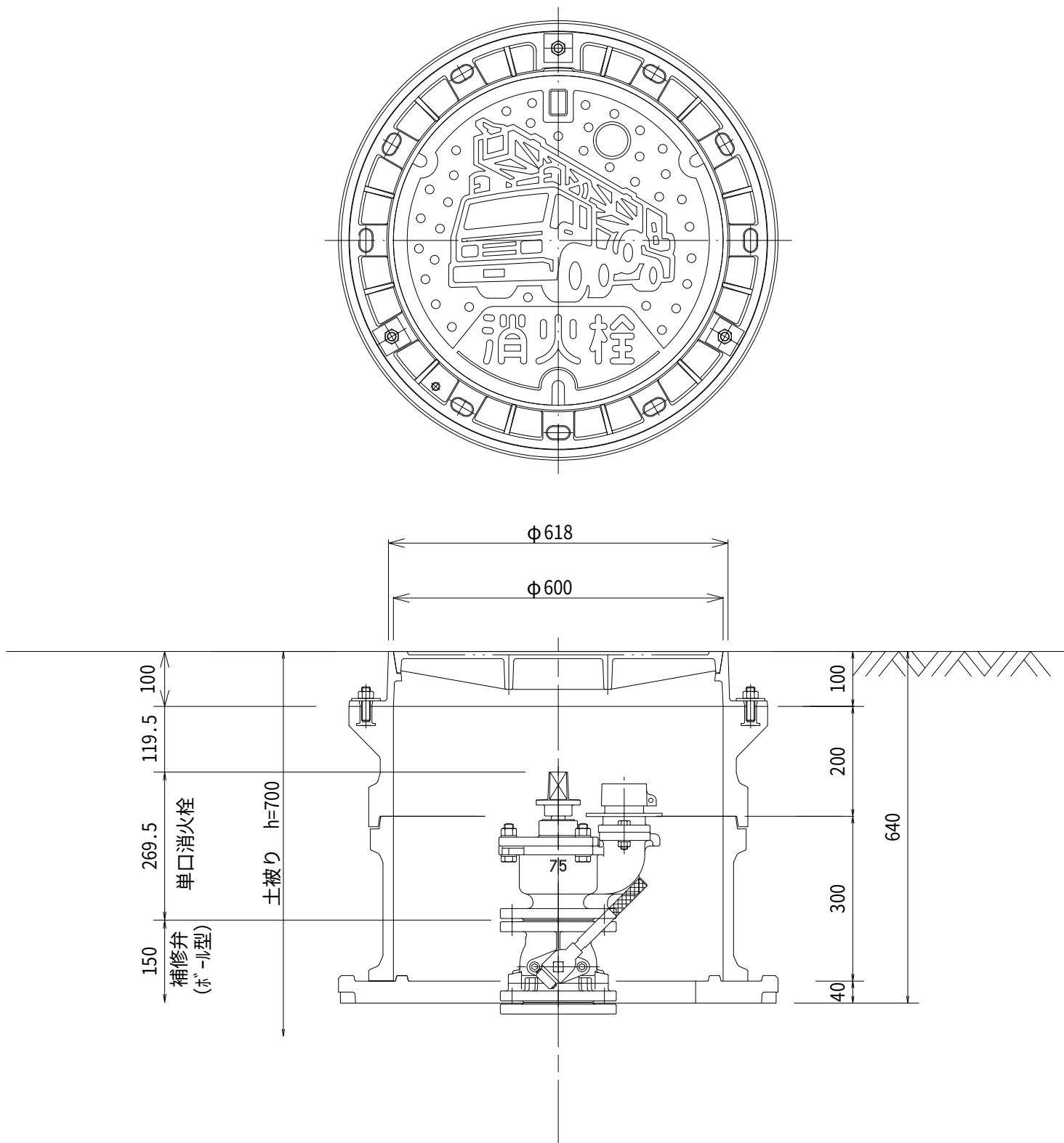
(安沢2-8)

発注者	矢板市役所				
事業名	配水管布設工事 第10号				
図名	標準土工定規図、給水管土工定規図、消火栓設置詳細図				
縮尺	図示	設計年月日	図番	5 / 6	
検印	照査	設計	製図		

仕切弁詳細図 S=1:10

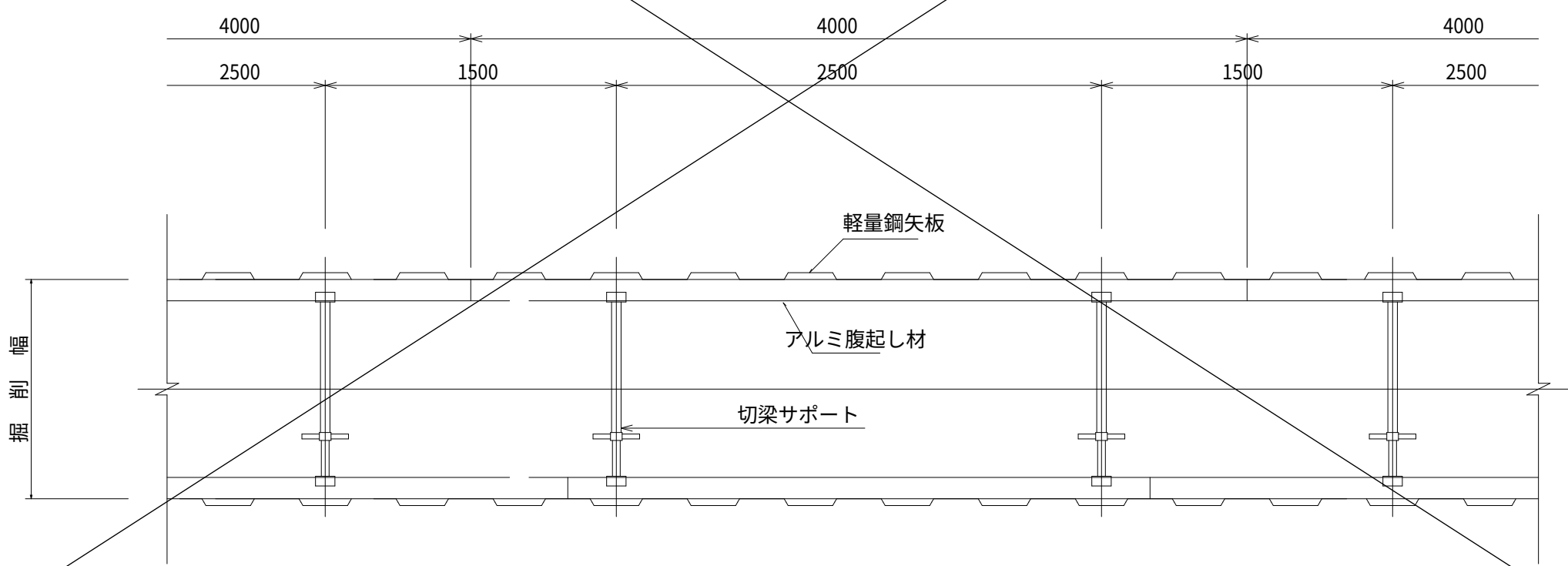


消火栓BOX詳細図 S=1:10



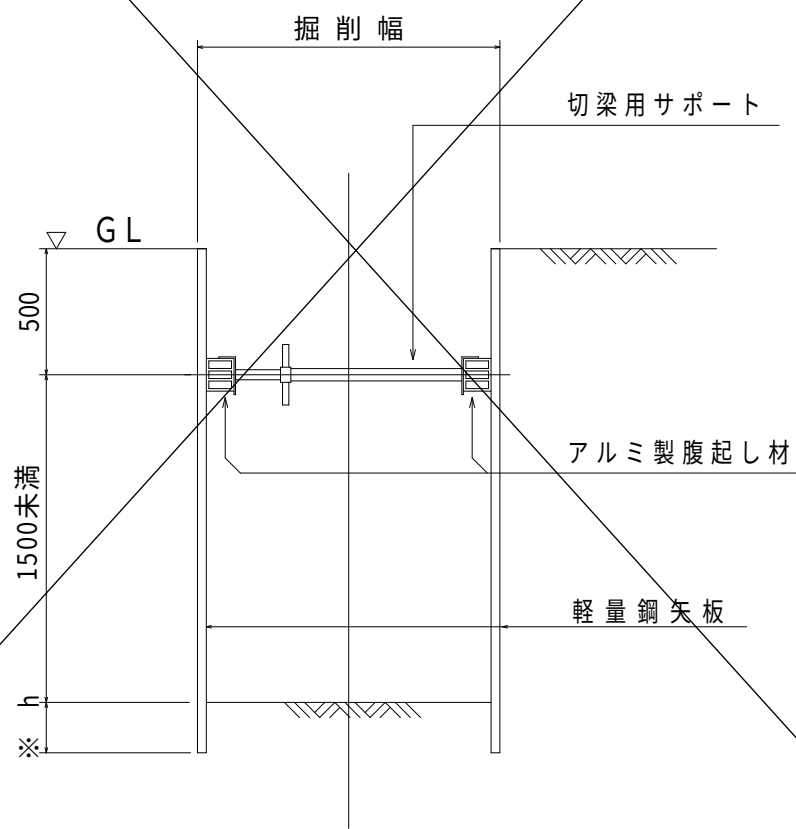
土留工標準図 S=1:30
(軽量矢板土留)

平面図



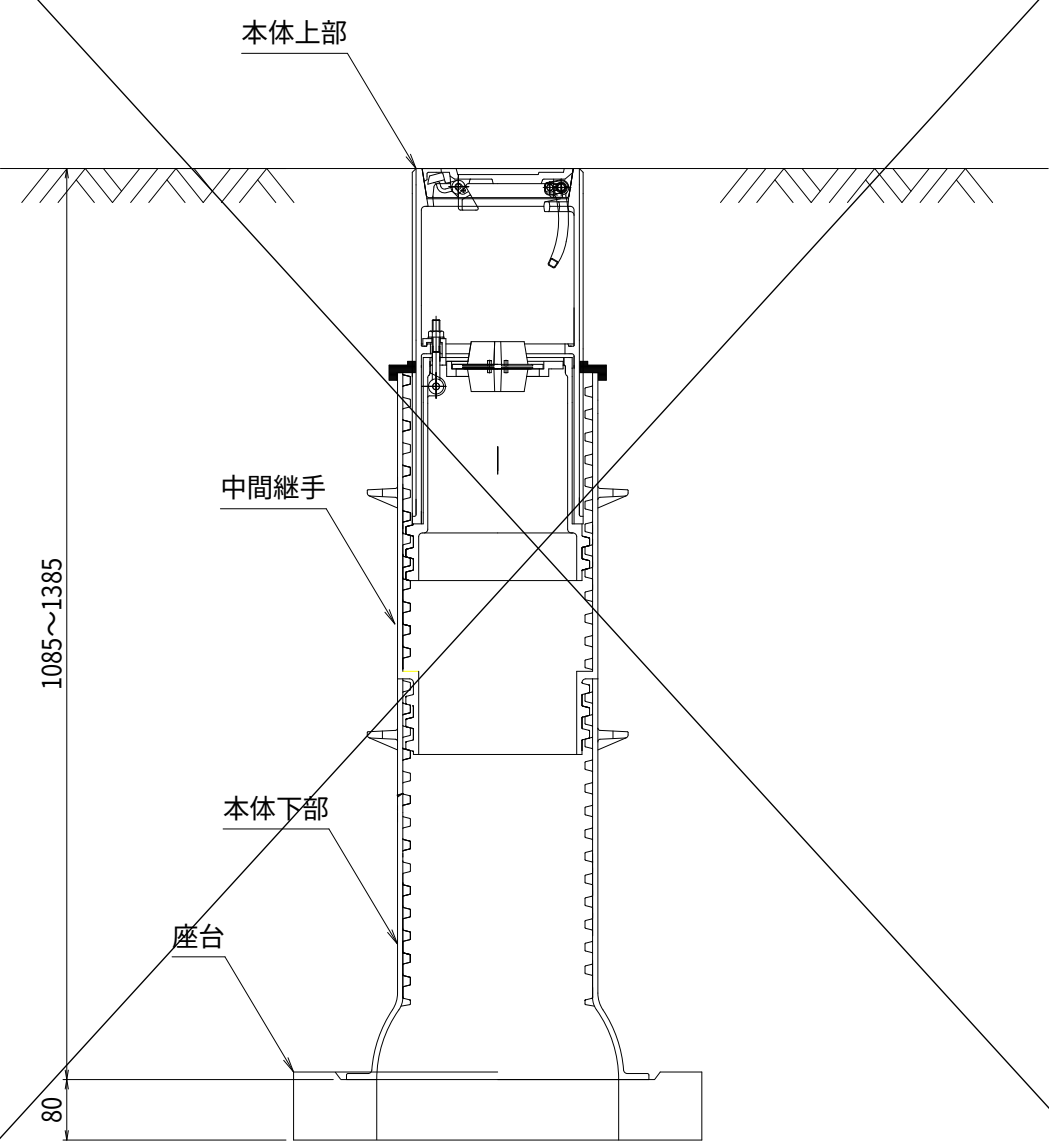
断面図

掘削深 2.00m 未満



※ 掘削深は最大4.0m未満とし、掘削深4.0m未満は切梁3段とする。
※ 矢板の根入れ深さは土質に応じて考慮する。
※ 道路土工仮設構造物工指針、下水道用設計積算要領―管路施設（開削工法）編一及び軽量鋼矢板設計施工マニュアル等に準じる。

φ100mm DP1.50



R 7 実施

発注者	矢板市役所				
工事名	配水管布設工事 第10号				
図面	消火栓BOX詳細図・仕切弁詳細図				
工事箇所	矢板市 安沢 地内				
縮尺	図示	設計年月日 ・		図番	6 / 6
検印	照査	設計	製図		